

トカラ列島宝島の現存植生と植物相

寺田仁志*

Vegetation of Takarajima in the Tokara Islands, Kagoshima prefecture

Jinshi TERADA

はじめに

宝島は鹿児島市の南西海上の北緯29度8分、東経129度12分に位置する。鹿児島市から定期船で14時間要し、トカラ列島の有人島では最南端の島である。また、東西3.5 km、南北3.5 kmで直角二等辺三角形をし、面積5.94 km²で、トカラ列島の有人島では3番目に広い。

1999年11月20日から11月24日までの5日間、博物館の資料収集活動の一環として植物相の調査、植物群落・現存植生図作成調査の機会を得たので、その結果を報告する。

また、今回の調査に関して補助をしていた宝島小学校教諭 池田博子氏、標本の整理をしていただいた鹿児島植物同好会の篠崎チサ氏、及び宝島の植生資料の提供ならびに調査の指導をしていただいた鹿児島短期大学の野照好教授に深く感謝する次第である。

I 宝島の気候、地質及び人為的環境

宝島には測候所等の施設がなく、近傍の中之島、名瀬市の気象から推し量るしかないが年降水量は2,000~2,500 mm、年平均気温は20.0~21.5℃、最寒月の平均最低気温は1月で10.0~10.5℃と推定され、降霜日はなく、温暖な亜熱帯性海洋型気候といえる。

宝島で最も標高の高いところはイマキラ岳(291.9 m)であり、雲霧帯が形成できる標高ではない。そのため、7月から9月には小雨と高い気温のため乾燥しやすく、干ばつが起きることも予想される。また、島の面積が狭く、北西から南東に向かって一重に尾根が走向しているだけのため、台風時などにおいて潮風の影響が島の全域にわたって及ぶものと推定される。このため、常緑広葉樹林帯=照葉樹林帯で、潮風に耐性の強いタブ林やタブ型林の発達する気候帯である。

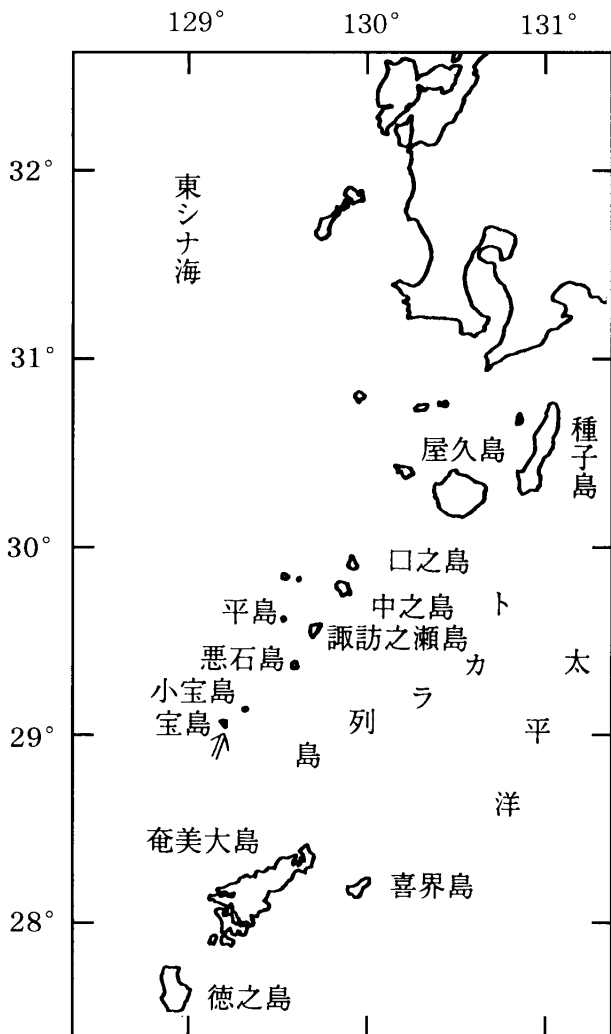


図-1 宝島位置図

* 〒892-0853 : 鹿児島市城山町1-1 鹿児島県立博物館

表 1 宝島周辺の気候

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	前年	統計年数
中之島	平均気温	12.1	12.7	15.5	18.7	22.3	24.8	27.3	28.1	25.9	22.1	18.0	14.5	20.2	1941~1951
	(最高)	14.9	15.4	18.6	22.4	25.9	28.4	30.9	31.4	29.9	25.4	21.7	18.1	23.6	1941~1951
	(最低)	9.3	10.1	12.4	15.0	18.8	21.1	23.6	24.8	21.9	18.7	14.4	11.0	16.7	1941~1951
	降水量	165.2	192.4	229.2	264.9	304.3	463.4	248.2	182.6	304.8	227.6	144.7	176.2	3,132.1	1907~1918
名瀬	平均気温	14.2	14.6	16.6	20.0	22.6	25.6	28.4	28.1	26.6	23.3	19.8	16.1	21.3	1961~1990
	(最高)	17.0	17.5	19.8	23.3	26.0	29.0	32.1	31.7	30.2	26.7	23.0	19.2	24.6	1961~1990
	(最低)	11.3	11.7	13.4	16.7	19.5	22.9	25.4	25.3	23.7	20.3	16.8	13.0	18.3	1961~1990
	降水量	187.7	154.1	195.9	214.6	319.2	406.7	220.2	311.0	298.5	219.0	190.2	153.5	2870.7	1961~1990

宝島の地質は、下位にある緑色を帯びた溶岩・凝灰角礫岩を主とする火山岩類とそれを覆う第四紀の堆積岩類に二分される。

このうち火山岩類は新第三紀の中新世（約一千万年前）のグリーンタフ活動による噴出物で、宝島層群と名付けられ、中性土壌を形成する。島の母岩を作り、島の北西から南東に向かって幅1～1.5 km、長さ4 kmにわたり地表を覆っている。島を北西から南東に走向して山地部分を形成し、その上にはリュウキュウマツ林やタブノキ林、リュウキュウチク林が形成されている。

一方、第四紀の堆積岩類は段丘をつくる礫層と石灰岩を主体とする琉球層群、およびそれらを覆う完新世隆起サンゴ礁、砂丘砂層でできており、弱塩基性の土壌である。堆積岩類は隆起サンゴ礁として島の全周を取り巻いているばかりでなく、東側に段丘、砂丘面として広く分布し、現在は畑地や水田などの耕作地や集落、森林としてはガジュマルの林になっている。

宝島はまた、生物分布の境界の島として有名である。哺乳類、両生・ハチュウ類を中心とした世界の動物分布の境界として渡瀬庄三郎の提唱した渡瀬線が悪石島との間に引かれ、渡瀬線の南側で最も近い島すなわち東洋区の北端の島といわれている。（ハブに近似するトカラハブの個体数も多く、今回の調査でも11月末というのに5頭の個体に遭遇した。）

宝島に人の居住が確認されるのは、縄文時代前期の大池遺跡および縄文時代晩期の浜坂遺跡からである。浜坂遺跡は昭和36年に発掘調査され、そこからは、現存しないイノシシの歯も見つかっている。現在までのところ宝島では旧石器時代の遺跡は発見されていないが、旧石器時代の遺跡のある種子島と奄美大島との海上路に位置することから今後発見される可能性が高く、先史時代から人々は住み続けてきたと思われる。

宝島の人口は120人（2,000年2月現在）で、トカラ列島では3番目に多い島である。島の主な産業は農業や牧畜で、集落の周辺を中心に段丘状になった面に畑や水田などの耕作地があるが、最近放棄されることも多くなっている。

II 調査方法

宝島の植物相および植物群落の現況を調べるため以下の3項目について調査を実施した。

(1) 植物相調査

(2) 植物群落調査（植生調査）

(3) 現存植生図作成調査

(1) 植物相調査

植物相の調査は、宝島の、海岸、湿地、山地、山頂、中腹部、路傍、耕作地、自然林、二次林、植林など植物が生育するすべての環境要素を取り入れたルートを設定し、ルート上に現れた植物を記録し、目録を作成した。同定する上で疑問を持つ種や花・種子をつけていた植物については標本を作製した。また、植生調査に現れた植物についても調査票から抽出し、植物目録の中に追加した。

初島住彦（1991）の「北琉球の植物」、平田 浩（1995）の「陸生の生物－植物 十島村誌」を参考にして川窪伸光の作成した「薩南分布一覧表」のデータベースから宝島の植物の文献目録を作成し、今回の調査と比較した。

(2) 植物群落調査（植生調査）

植物群落を包括的に把握するには Braun-Blanquet の全推定法（1964）が適している。

宝島の植物群落について海岸の隆起サンゴ礁・砂丘荒原、牧草地、畑地、水田、湿地、路傍、植林地、森林にあらわれる種組成が均一な群落を対象にし、草地は、1～100 m²、低木林では10～100 m²、高木林は100～400 m²の調査面積で、形状は必ずしも方形枠にこだわらず、群落の分布状態に対応して調査地点を設定した。

各調査区域において各階層の植物について総合優占度（各植物が地表面を覆っている度合を階級基準によってあらわす）群度（各植物の分散状態を階級基準によってあらわす）を全推定法（Braun-Blanquet 1964）によって記録した。

総合優占度・群度階級の基準については以下のとおりである。

総合優占度階級基準

- 5：その植物の被度が調査面積の75%以上を占めている。個体数は任意。
- 4：その植物の被度が調査面積の50～75%以上を占めている。個体数は任意。
- 3：その植物の被度が調査面積の25～50%以上を占めている。個体数は任意。
- 2：その植物の被度が調査面積の10～25%以上を占めている。あるいは、被度はそれ以下でも個体数がきわめて多い。
- 1：その植物の被度が調査面積の10%以下であり、それでも個体数が被度のどちらかが高い。
- ＋：低被度で個体数もわずかである。

群度階級基準

- 5：植物が調査区域内にカーペット状に一面に生育している。
- 4：大きな斑状、あるいはあちこち穴の空いたカーペット状に生育している。
- 3：小群の斑紋状で生育している。
- 2：小群をなしている。
- 1：単独に生育している。

図-2 調査ルート図

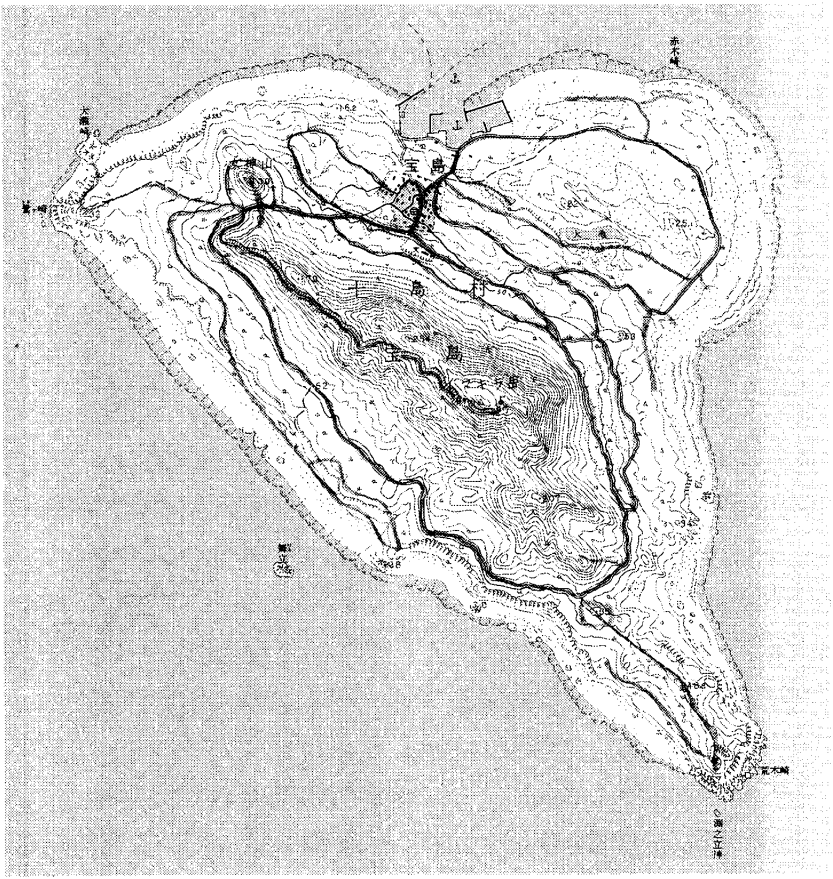
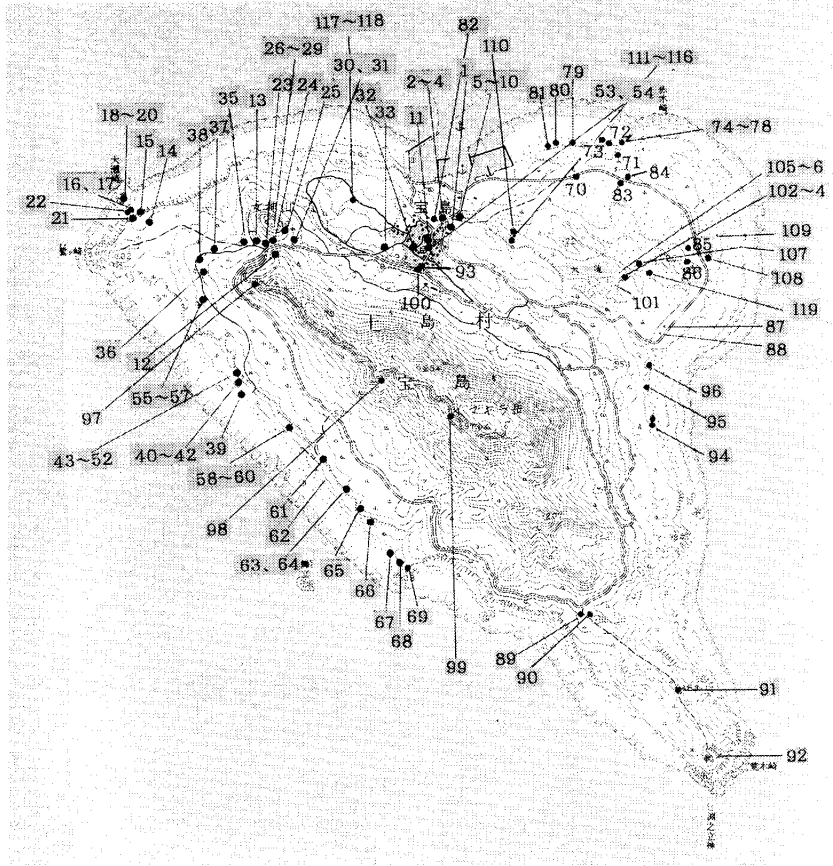


図-3 調査地点図



(3) 現存植生図作成調査

植物群落調査資料と既発表資料を参考にして群集・群落区分を行なった。この結果をもとにして調査区域内の現存植生がどの範疇に入るかを相観によって判断し、地図上に記録する現地調査を行なった。群落の広がりについては、国土地理院作成の平成7年撮影の空中写真を参考にして、二万五千分の一の現存植生図を作製した。

Ⅲ 調査結果

1 植物相

図-2のような調査ルート上でシダ植物以上の高等植物92科344種の確認ができた。種のリストについてはP6～9、種数については以下の表-2のとおりである。

表-2 宝島の植物相

	今回確認種	文献種数	総計種数
シダ植物	9科 31種	12科 49種	12科 49種
裸子植物	3科 4種	4科 5種	4科 5種
被子植物	80科 309種	102科 582種	102科 590種
双子葉植物	68科 230種	78科 408種	78科 415種
離弁花類	47科 151種	55科 271種	55科 276種
合弁花類	21科 79種	23科 137種	23科 139種
単子葉植物	12科 79種	24科 174種	24科 175種
合計	92科 344種	118科 636種	118科 644種

このうち以下の9種については今回の調査で初めて記録された。(☆は帰化植物あるいは逸出植物, ◎は耕作地雑草)

表-3 新確認種

種名	分布	量・分散状態
クワ科 クワクサ◎	宝島集落内の路傍	数株点在
ザクロソウ科 クルマバザクロソウ☆◎	宝島港の路傍	数株点在
ナデシコ科 ノミノフスマ☆◎	宝島集落内の路傍	数株塊状
アブラナ科 カラクサガラシ☆	大間のビワ園の中	数株点在
トウダイグサ科 コミカンソウ☆◎	宝島の集落内	数株点在
ゴマノハグサ科 ウリクサ◎	宝島集落付近の水田	多数分散
ゴマノハグサ科 アゼナ◎	大池近くの水田	多数分散
サトイモ科 リュウキュウハンゲ◎	大間のビワ園	塊状に点在

Scientific name	和名	異名	文 献 認 種	科	属	種
Chloranthaceae				センリョウ科		
<i>Sarcandra glabra</i> Nakai				センリョウ		〇 〇
Salicaceae				ヤナギ科		
<i>Salix eriocarpa</i> Fr.&Sav.				ジャヤナギ		〇
Fagaceae				ブナ科		
<i>Castanopsis sieboldii</i> Yamazaki et Mashiba				スタジイ		〇 〇
<i>Quercus phillyraeoides</i> f. <i>wrightii</i> Mak.				クワバメガシ		▲ 〇
Ulmaceae				ニレ科		
<i>Celtis boninensis</i> Koidz.				クワノハエノキ		〇 〇
<i>Trema orientalis</i> Bl.				ウラジロエノキ		〇
Moraceae				クワ科		
<i>Broussonetia papyrifera</i> L'Herit				カジノキ		〇
<i>Ficus erecta</i> Thunb.				イヌビワ		〇 〇
<i>Ficus microcarpa</i> L. f.				ガジュマル		〇 〇
<i>Ficus pumila</i> L.				オオイタビ		〇 〇
<i>Ficus superba</i> var. <i>japonica</i> Comer				アコウ		〇 〇
<i>Ficus virgata</i> Reinw.				ハマイヌビワ		〇 〇
<i>Morus australis</i> Poir.				シマグワ		〇 〇
<i>Fatouma villosa</i> .				クワクサ		〇
Urticaceae				イラクサ科		
<i>Boehmeria gigantea</i> Satake				ニオウヤブマオ		〇 〇
<i>Boehmeria nivea</i> var. <i>nipponica</i> Hatu.				カラムシ		〇 〇
<i>Gonostegia hirta</i> Miq.				ツルマオ		〇 〇
<i>Oreocnide pedunculata</i> Masamune				ハドノキ		〇 〇
<i>Pilea peploides</i> Hook.&Arn.				コケミス		〇 〇
<i>Pouzolzia zeylanica</i> Benn.				ヤンバルツルマオ		〇 〇
Loranthaceae				ヤドリギ科		
<i>Korthalsella japonica</i> Engl.				ヒノキヤドリギ		〇 〇
Balanophoraceae				ツチトリモチ科		
<i>Balanophora tobricola</i> Mak.				キレツチトリモチ		〇
Polygonaceae				タデ科		
<i>Polygonum chinense</i> L.				ツルソバ		〇 〇
<i>Polygonum conspicuum</i> Nakai				サクラタデ		〇
<i>Polygonum glabrum</i> Willd.				オオサクラダテ		〇
<i>Polygonum hydropiper</i> L.				ヤナギタデ		〇 〇
<i>Polygonum kawasagoanum</i> Mak.				シマヒメタデ		〇
<i>Polygonum longisetum</i> de Bruyn				イヌタデ		〇 〇
<i>Polygonum praetermissum</i> Hook. f.				ハノバナウナギツカミ		〇 〇
<i>Rumex acetosa</i> L.				スイバ		〇 〇
<i>Rumex japonicus</i> Houtt.				ギンギシ		〇 〇
Chenopodiaceae				アカザ科		
<i>Malva</i> sp.				マルバアカザ		〇
Amaranthaceae				ヒユ科		
<i>Achyrothes bidentata</i> var. <i>hachijonsis</i>				ハチジョウウイノコズチ		〇 〇
<i>Alternanthera versilis</i> R. Br.				ツルノグイトウ		+ 〇
<i>Amaranthus gracilis</i> Deef.				アオビユ		+
<i>Amaranthus lividus</i> L.				イヌビユ		+ 〇
<i>Amaranthus patulus</i> Bertoloni				ノゾアオグイトウ		+
<i>Celosia argentea</i> L.				ノグイトウ		+
<i>Phloxeris wrightii</i> Hook. f.				イソフサギ		〇 〇
Nyctaginaceae				オシロイバナ科		
<i>Pisonia umbellifera</i> Seem.				オオクサボク		〇 〇
Alzooaceae				ザクロソウ科		
<i>Sesuvium portulacastrum</i> L.				ミルスベリヒユ		+
<i>Tetragonia tetragonoides</i> O. K.				ツルナ		〇
<i>Mollugo verticillata</i> L.				クルマバザクロソウ		〇
Portulacaceae				スベリヒユ科		
<i>Portulaca oleracea</i> L.				スベリヒユ		〇 〇
Caryophyllaceae				ナデシコ科		
<i>Arenaria serpyllifolia</i> L.				ノミノツツリ		+
<i>Cerastium fontanum</i> ssp. <i>trivale</i> var. <i>angustifolium</i>				ミミナダサ		〇 〇
<i>Dianthus kiusianus</i> Mak.				ヒメハマナデシコ		〇 〇
<i>Sagina japonica</i> Ohwi				ツメクサ		〇 〇
<i>Sagina maxima</i> A. Gray				ハマツメクサ		〇 〇
<i>Stellaria aquatica</i> Scop.				ウシハコベ		+ 〇
<i>Stellaria media</i> Willd.				コハコベ		+
<i>Stellaria media</i> var. <i>procera</i> Klett&Richter				ミドリハコベ		+
<i>Stellaria alata</i> var. <i>undulata</i> Ohwi				ノミノフスマ		〇
Ranunculaceae				キンボウゲ科		
<i>Clematis leschenaultiana</i> DC.				ピロウド ボタヅル		〇
<i>Clematis meyeniana</i> Walp.				ヤンバルセンニンソウ		〇
<i>Clematis terniflora</i> DC.				センニンソウ		〇
<i>Ranunculus sieboldii</i>				シマキツネノボタン		〇 〇
<i>Ranunculus sibiricus</i> L. var. <i>orientalis</i>				キツネノボタン		〇
<i>Semiaquilegia adoxoides</i> Mak.				ヒメウズ		▲ 〇
Lardizabalaceae				アケビ科		
<i>Stauntonia hexaphylla</i> Decne.				ムベ		〇
Menispermaceae				ツツラフジ科		
<i>Cocculus laurifolius</i> DC.				コウシュウヤク		〇 〇
<i>Cyclos insularis</i> Hatusima				ミヤコジマツツラフジ		〇 〇
<i>Stephania japonica</i> Miels				ハスノハカズラ		〇 〇
Magnoliaceae				モクレン科		
<i>Kaduzura japonica</i> Dunal				ピナンカズラ		〇 〇
Lauraceae				クスノキ科		
<i>Cassytha filiformis</i> L.				スナヅル		〇 〇
<i>Cinnamomum camphora</i> Sieb.				クスノキ		+ 〇
<i>Cinnamomum daphnoides</i> S.&Z.				マルバニッケイ		〇 〇
<i>Cinnamomum puseudo-pedunculatum</i> Hay.				ヤブニッケイ		〇 〇
<i>Cinnamomum x durifoliosicola</i> Hatusima				ヒロハヤブニッケイ		〇 〇
<i>Litsea japonica</i> Juss.				ハマビワ		〇 〇
PTERIDOPHYTA	シダ植物					
Psilotaceae	マンバラン科					
<i>Psilotum nudum</i> Griseb.		マツバラン	〇			
Lycopodiaceae	ヒカゲノカズラ科					
<i>Lycopodium comarum</i> L.		ミスズギ	〇			
Selaginellaceae	イワヒバ科					
<i>Selaginella luchuensis</i> Koidz.		ヒメムカデクラマゴケ	〇 〇			
<i>Selaginella tamariscina</i> Spring		イワヒバ	〇 〇			
Equisetaceae	トクサ科					
<i>Ophioglossum petiolatum</i> Hook		コヒロハナヤスリ	〇			
Marattiaceae	リュウビンタイ科					
<i>Angiopteris lygodilifolia</i> Rosenst.		リュウビンタイ	〇 〇			
Schizaeaceae	カニクサ科					
<i>Lygodium japonicum</i> f. <i>elongatum</i> Rosenst.		ナガバカニクサ	〇 〇			
Gleicheniaceae	ウラジロ科					
<i>Dicranopteris linearis</i> Underw		コシダ	〇			
<i>Gleichenia japonica</i> Spring		ウラジロ	〇 〇			
Hymenophyllaceae	コケシノブ科					
<i>Crepidomanes auriculata</i> K. Iwats.		ツルホラゴケ	〇 〇			
<i>Crepidomanes birmanicum</i> K. Iwats.		ハイホラゴケ	〇			
<i>Crepidomanes radicans</i> var. <i>naseana</i> K. Iwats.		オオハイホラゴケ	〇			
<i>Gonocormus minutus</i> K. Iwats		ウチワゴケ	〇			
Pteridaceae	ワラビ科					
<i>Adiantum capillus-veneris</i> L.		ホウライシダ	〇			
<i>Lindsaea orbiculata</i> Kuhn		マルバホングウシダ	〇			
<i>Lindsaea orbiculata</i> var. <i>commixta</i> Kramer		シンエダウチホングウシダ	〇 〇			
<i>Microlepia strigosa</i> Presl		インカガマ	〇 〇			
<i>Onychium japonicum</i> Kunze		タチシノブ	〇 〇			
<i>Pteridium aquilinum</i> var. <i>latiusculum</i> Heller		ワラビ	〇 〇			
<i>Pteris dispar</i> Kunze		アマクサシダ	〇 〇			
<i>Pteris ensiformis</i> Blum.		ホコシダ	〇			
<i>Pteris fauriei</i> Hieron		ハチジョウシダ	〇 〇			
<i>Pteris ryukyensis</i> Tagawa		リュウキュウイノモトソウ	〇 〇			
<i>Sphenomeris biflora</i> Tagawa		ハマホラシノブ	〇 〇			
<i>Sphenomeris chinensis</i> Maxon		ホラシノブ	〇 〇			
Parkeriaceae	ミズワラビ科					
<i>Nephrolepis auriculata</i> Trimen		タマシダ	〇 〇			
<i>Nephrolepis biserrata</i> Schott		ホウビカンジュ	〇			
Aspidiaceae	オシダ科					
<i>Arachniodes pseudo-artistata</i> Nakaike		コバナカナワラビ	〇			
<i>Bolbitis subcordata</i> Ching		ヘツカシダ	〇 〇			
<i>Ctenitis subglandulosa</i> Ching		カツモウイノデ	〇 〇			
<i>Cyrtomium falcatum</i> Presl		オニヤブソテツ	〇 〇			
<i>Deparia petersenii</i> M. Kato		ナデシダシダ	〇 〇			
<i>Diplazium subsinuatum</i> Tagawa		ヘラシダ	〇 〇			
<i>Dryopteris varia</i> O.K.		ナンカイイタチシダ	〇 〇			
<i>Polystichum lepidocaulon</i> J.Sm.		オリツルシダ	〇 〇			
<i>Stenogramma pozoi</i> ssp. <i>mollissima</i> K.Iwatsuki		ミゾシダ	〇 〇			
<i>Thelypteris angustifrons</i> Ching		コハシシダ	〇 〇			
<i>Thelypteris cystopteroides</i> Ching		ヒメハシシダ	〇			
<i>Thelypteris acuminatus</i> Morton		ホシダ	〇 〇			
<i>Thelypteris interrupta</i> K. Iwatsuki		テツホシダ	〇 〇			
<i>Thelypteris parasitica</i> Fosberg		ケホシダ	〇 〇			
<i>Thelypteris torresiana</i> Alston		アラゲヒメワラビ	〇			
<i>Asplenium antiquum</i> Mak.		オオタニワタリ	〇			
<i>Asplenium nidus</i> L.		シマオオタニワタリ	〇			
<i>Dryopteris sordidipes</i>		ヨゴレイタチシダ	〇			
Polypodiaceae	ウラボシ科					
<i>Colysis pothifolia</i> Presl		オオイワヒトデ	〇 〇			
<i>Colysis wrightii</i> Ching		ヤリノホクリハラシ	〇 〇			
<i>Colysis x ehintensis</i> H. Ito		シンテンウラボシ	〇			
<i>Lemmaphyllum microphyllum</i> Presl		マメツタ	〇 〇			
<i>Lepisorus thunbergianus</i> Ching		ノキシノブ	〇 〇			
SPERMATOPHYTA	裸子植物					
GYMNOSPERMAE	裸子植物					
Cycadaceae	ソテツ科					
<i>Cycas revoluta</i> Thunb.		ソテツ	〇 〇			
Podocarpaceae	イヌマキ科					
<i>Podocarpus macrophyllus</i> D.Don		イヌマキ	〇			
Pinaceae	マツ科					
<i>Pinus luchuensis</i> Mayr		リュウキュウマツ	〇 〇			
<i>Pinus thunbergii</i> Parl.		クロマツ	▲? 〇			
Cupressaceae	ヒノキ科					
<i>Juniperus luchuensis</i> Satake		オキナワハイネズ	〇 〇			
ANGIOSPERMAE	被子植物					
DICOTYLEDONEAE	双子葉植物					
ARCHICHLAMYDEAE	古生花被区					
Casuarinaceae	モクマオウ科					
<i>Casuarina equisetifolia</i> J. R.&G. Forst		トクサバモクマオウ	+ 〇			
Saururaceae	ドクダミ科					
<i>Saururus chinensis</i> Bail.		ハンゲショウ	〇 〇			
Piperaceae	コショウ科					
<i>Peperomia japonica</i> Mak.		サダソウ	〇			
<i>Piper kadzura</i> Ohwi		フウトウカズラ	〇 〇			

<i>Neolitea sericea</i> var. <i>aurata</i> Hatusima	キンシヨクダモ	▼ ○	<i>Ricinus communis</i> L.	ヒマ	+
<i>Persea thunbergii</i> Kosterm.	タブノキ	○ ○	<i>Phyllanthus urfariar</i>	コミカンソウ	○
Papaveraceae	ケシ科		<i>Securinega suffruticosa</i> var. <i>amamiensis</i> Hurus	アマミヒトツバハギ	○ ○
<i>Colydalis heterocarpa</i> var. <i>japonica</i> Ohwi	キケマン	○	Buxaceae	ツグ科	
<i>Colydalis tashiroi</i> Mak.	シマキケマン	○ ○	<i>Buxus microphylla</i> esp. <i>sinica</i> Hatusima	タイワンアサマツグ	+
Capparidaceae	フウチョウソウ科		Anacardiaceae	ウルシ科	
<i>Crataeva falcata</i>	ギョボク	○ ○	<i>Rhus javanica</i> L.	ヌルデ	○ ○
Cruciferae	アブラナ科		<i>Rhus succedanea</i> L.	ハゼノキ	○ ○
<i>Cardamine flexuosa</i> Wth	タネツケバナ	○ ○	Aquifoliaceae	モチノキ科	
<i>Coronopus wrightii</i> Hara	ハマガラシ	○	<i>Ilex integra</i> Thunb.	モチノキ	○ ○
<i>Lepidium virginicum</i> L.	ハマダイコン	+	Celastraceae	ニシキギ科	
<i>Raphanus sativus</i> var. <i>hortensis</i> f. <i>raphanistroid</i>	ミチバタガラシ	○ ○	<i>Celastrus kusanoi</i> var. <i>glaber</i> Hatusima	リュウキュウツルウメモドキ	○
<i>Rorippa dubia</i> Hara	イヌガラシ	○ ○	<i>Celastrus punctulatus</i> Thunb.	チリハツルウメモドキ	○ ○
<i>Rorippa indica</i> Hieron.	カラクサガラシ	○	<i>Euonymus japonicus</i> Thunb.	マサキ	○ ○
<i>Coronopus didymus</i> .	シママンネングサ	○	<i>Euonymus luchuensis</i> T. Ito	リュウキュウマユミ	○
<i>Sedum formosanum</i> N. E. Br.	コゴメマンネングサ	○	<i>Euonymus tanakae</i> Maxim.	コクテンギ	○ ○
<i>Sedum uniflorum</i> Hook. & Arn.			<i>Microtropis japonica</i> Hall. f.	モクレイシ	○ ○
Saxifragaceae	ユキノシタ科		Staphyleaceae	ミツバツグ科	
<i>Pittospora Hydrangeae scandens</i> esp. ct ベラ科	トカラアジサイ	○ ○	<i>Turpinia ternata</i> Nakai	ショウベンノキ	○ ○
Rosaceae	バラ科		Sapindaceae	ムクロジ科	
<i>Pitiosporum tobira</i> Ait.	バラ科		<i>Dodonaea viscosa</i> Jacq.	ハウチフノキ	▼ ○
<i>Agrimonia pilosa</i> Ledeb.	キンミズヒキ	○	Rhamnaceae	クロウメモドキ科	
<i>Duchesnea chrysantha</i> Miq.	ヘビイチゴ	○ ○	<i>Rhamnus ilukuensis</i> Koidz.	リュウキュウクロウメモドキ	○ ○
<i>Eriobotrya japonica</i>	テンノウメ	○ ○	Vitaceae	ブドウ科	
<i>Ostomeles anthyllifolia</i> f. <i>subrotundata</i> Koidz.	ビワ	○	<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> var. <i>hancei</i> Rehd	テリハノブドウ	○ ○
<i>Rhaphiolepis indica</i> var. <i>integerrima</i> f. <i>umbellata</i>	シャリンバイ	○ ○	<i>Tetrasigma formosana</i> Cagnep.	ミツバビンボウカズラ	○
<i>Rosa wichuriana</i> Crep.	テリハノイバラ	○ ○	<i>Vitis ficifolia</i> Bunge	エビヅル	○ ○
<i>Rubus croceacanthus</i> var. <i>maximowiczii</i> Sugim.	リュウキュウバライチゴ	○ ○	Elaeocarpaceae	ホルトノキ科	
<i>Rubus parvifolius</i> L.	ナワシロイチゴ	○ ○	<i>Elaeocarpus japonica</i> S.&Z.	コバンモチ	○ ○
<i>Rubus sieboldii</i> Bl.	ヒロウドカジイチゴ	▲	<i>Elaeocarpus sylvestris</i> Poir.	ホルトノキ	○ ○
Leguminosae	マメ科		Melvaceae	アオイ科	
<i>Acacia confusa</i> Merr.	ソウシジュ	+	<i>Abelmoschus moschatus</i> Medic.	リュウキュウトロアオイ	+
<i>Aeschynomene indica</i> L.	クサネム	○ ○	<i>Hibiscus mutabilis</i> L.	サキシマフヨウ	○ ○
<i>Albizia julibrissin</i> var. <i>glabriflora</i> Ohashi	ヒロハネム	○ ○	<i>Hibiscus lilaceus</i> L.	オオハマボク	○ ○
<i>Bauhinia japonica</i> Maxim.	ハカマカズラ	○ ○	<i>Sida rhombifolia</i> L.	キンゴジカ	+
<i>Caesalpinia crista</i> L.	ナンテンカズラ	○ ○	<i>Sida rhombifolia</i> esp. <i>insularis</i> Hatusima	ハイキンゴジカ	○ ○
<i>Canavalia lineata</i> DC.	ハマナタマメ	○ ○	<i>Urena lobata</i> L.	オオバボンテンカ	○ ○
<i>Cassia obtusifolia</i> L.	エビスグサ	+	Sterculiaceae	アオギリ科	
<i>Desmodium caudatum</i> DC.	ミソナオシ	○	<i>Melochia corymbifolia</i> L.	ノジアオイ	+
<i>Desmodium heterocarpon</i> DC.	シバハギ	○	Actinidiaceae	マタタビ科	
<i>Desmodium leptopus</i> A. Gray	トキワヤブハギ	○	<i>Actinidia rufa</i> Planch.	ナシカズラ	○
<i>Galactia tashiroi</i> Maxim.	ハギカズラ	○	Theaceae	ツバキ科	
<i>Kummerowia stricta</i> Schindl.	ヤハズソウ	○	<i>Camellia japonica</i> L.	ヤブツバキ	○ ○
<i>Lespedeza cuneata</i> D. Don	メドハギ	○ ○	<i>Eurya emarginata</i> Mak.	ハマヒサカキ	○ ○
<i>Lespedeza cuneata</i> var. <i>serpens</i> Ohwi	ハイメドハギ	○ ○	<i>Schima wallichii</i> esp. <i>ilukuensis</i> Bloemb.	イジュ	+
<i>Leuceana leucocephala</i> de Wit	ギンネム	+	Guttiferae	オトギリソウ科	
<i>Lotus australis</i> And.	シロバナミヤコグサ	○ ○	<i>Hypericum erectum</i> Thunb.	オトギリソウ	○
<i>Maackia tashiroi</i> Mak.	ハマエンジュ	○ ○	<i>Hypericum sampsonii</i> Hance	ツクヌキオトギリ	○
<i>Medicago lupulina</i> L.	コメツブウマゴヤシ	+	<i>Elatine triandra</i> Schk.	ミノハコベ	○
<i>Melilotus suaveolens</i> Ledeb.	シナガワハギ	+	Violaceae	スマレ科	
<i>Phaseolus pinnata</i> Pierre	クロヨナ	○ ○	<i>Viola betonicifolia</i> var. <i>oblongo-sagittata</i> F. Ma	リュウキュウシロスミレ	○ ○
<i>Pueraria lobata</i> Ohwi	クズ	○ ○	<i>Viola grypoceras</i>	ツヤスミレ	○ ○
<i>Pueraria montana</i> Merr.	タイワンクズ	○ ○	<i>Viola mandehurica</i> var. <i>triangularis</i> Mizushima	アツバスマレ	○
<i>Rhynchosia volubilis</i> Lour.	タンキリマメ	○ ○	<i>Viola pseudo-japonica</i>	タイワンコスミレ	○
<i>Vicia hirsuta</i> S. F. Gray	スズメノエンドウ	+	<i>Viola yezoensis</i> var. <i>pseudo-japonica</i> Hatusima	リュウキュウコスミレ	○ ○
<i>Vicia sativa</i> L.	カラスノエンドウ	+	Elaeagnaceae	グミ科	
<i>Vicia tetrasperma</i> Schreb.	カスマグサ	+	<i>Elaeagnus glabra</i> Thunb.	ツルグミ	○ ○
<i>Vigna marina</i> Merr.	ハマササゲ	○ ○	<i>Elaeagnus macrophylla</i> Thunb.	マルバグミ	○ ○
Oxalidaceae	カタバミ科		<i>Elaeagnus thunbergii</i> Serv.	タイワンアキグミ	○
<i>Oxalis corniculata</i> L.	カタバミ	○ ○	<i>Elaeagnus umbellata</i> Thunb.	アキグミ	○ ○
<i>Oxalis corymbosa</i> DC.	ムラサキカタバミ	+	<i>Elaeagnus umbellata</i> var. <i>rotundifolia</i> Mak.	マルバアキグミ	○ ○
Rutaceae	ミカン科		Lythraceae	ミソハギ科	
<i>Citrus depressa</i> Hay.	ヒラミレモン	▼ ○	<i>Ammannia multiflora</i> Roxb.	ヒメミソハギ	○ ○
<i>Evodja glauca</i> Miq.	ハマセンダン	○ ○	<i>Rotala indica</i> var. <i>uliginosa</i> Koehne	キカシグサ	○ ○
<i>Murraya paniculata</i> Jack	ゲツキツ	▼ ○	<i>Rotala leptopetalata</i> var. <i>litorea</i> Koehne	ミズキカシグサ	○ ○
<i>Zanthoxylum allanthoides</i> S.&Z.	カラスザンショウ	○ ○	Alangiaceae	ウリノキ科	
<i>Zanthoxylum scandens</i> Bl.	ツルザンショウ	▼ ○	<i>Alangium premmifolium</i> Ohwi	シマウリノキ	○ ○
<i>Zanthoxylum schiniifolium</i> S.&Z.	イヌザンショウ	○ ○	Onagraceae	アカバナ科	
<i>Melia azedarach</i> L.	センダン	○ ○	<i>greatrexii</i> Raven	ウスゲヂョウジダ	○
Polygalaceae	ヒメハギ科		<i>Oenothera laciniata</i>	コマツヨイグサ	○
<i>Polygala japonica</i> Houtt.	ヒメハギ	○	<i>Ludwigia octovalvis</i> var. <i>seesiliflora</i>	キダチキンバイ	○ ○
Euphorbiaceae	トウダイグサ科		Araliaceae	ウコギ科	
<i>Acalypha australis</i> L.	エノキグサ	+	<i>Aralia elata</i> Seem.	タラノキ	○ ○
<i>Bischofia javanica</i> Bl.	アカギ	+	<i>Dendropanax trifidus</i> Mak.	カクレミノ	○ ○
<i>Breynia rhamnoides</i> Muell.-Arg.	オオシマコバンノキ	▼ ○	<i>Fatsia japonica</i> Decne. & Planch.	ヤツデ	○ ○
<i>Daphniphy glaucescens</i> ssp. <i>teijsmannii</i> Huang	ヒメズズリハ	○ ○	<i>Hedera rhombea</i> Beane	キツタ	○ ○
<i>Drypetes karapinensis</i>	ツグモドキ	○ ○	<i>Schefflera octophylla</i> Harms	フカノキ	○ ○
<i>Euphorbia chamaecybe</i> L.	ハイニシキソウ	+	Umbelliferae	セリ科	
<i>Euphorbia chamissonis</i> Boiss.	ハマダイグサ	○ ○	<i>Angelica japonica</i> A. Gray	ハマウド	○ ○
<i>Euphorbia helioscopia</i> L.	トウダイグサ	+	<i>Centella asiatica</i> Urban	ツボクサ	○ ○
<i>Euphorbia jokinii</i> Boiss.	イワダイグサ	○ ○	<i>Cryptotaenia canadensis</i> DC.	ミツバ	○
<i>Euphorbia supina</i> Rafin	ユニシキソウ	+	<i>Glehnia littoralis</i> Fr. Schmidt	ハマボクフウ	○ ○
<i>Euphorbia hirta</i> L.	シマニシキソウ	○ ○	<i>Hydrocotyle delicata</i> Elm.	ケチドメグサ	○
<i>Excoecaria agallocha</i> L.	シマシラキ	▼	<i>Hydrocotyle maritima</i> Honda	ノチドメ	○ ○
<i>Glochidion obovatum</i> S.&Z.	カンコノキ	○ ○	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i> Lamk.	チドメグサ	○ ○
<i>Glochidion zeylanicum</i> A. Juss.	カキバカンコノキ	○ ○	<i>Oenanthe javanica</i> DC.	セリ	○
<i>Melilotus japonicus</i> Muell.-Arg.	アケメグサ	○ ○	<i>Peucedanum japonicum</i> Thunb.	ボタンボクフウ	○ ○
<i>Melilotus philippensis</i> Muell.-Arg.	クスノハガシワ	▼ ○	<i>Sanicula chinensis</i> Bunge	ウマノミツバ	○ ○
<i>Mercurialis leocarpa</i> S.&Z.	ヤマアイ	○	<i>Torilis japonica</i> DC.	ヤブジラミ	○ ○
			METACHLAMYDEAE	後生花楸区	

Ericaceae	ツツジ科			Damnacanthus indicus var. parvifolius Koidz.	コバノジュズネノキ	○
Rhododendron simsii var. tamurae Kanenoh.&H.	マルバサツキ	○	○	Diplospora dubia Masamune	シロミズ	○
Rhododendron tashiroi var. lasiophyllum Hatusei	アラグサクラツツジ	○	○	Galium gracilis Mak.	コバノヨツバムグラ	○
Vaccinium bracteatum Thunb.	シャシヤンボ	○	○	Galium millorhizum var. lutchuense Hara	リュウキュウヨツバムグラ	○ ○
Myrsinaceae	ヤブコユジ科			Galium spurium f. strigosum Kitagawa	ヤエムグラ	○
Ardisia sieboldii Miq.	モクダチバナ	○	○	Gardenia jasminoides var. grandiflora Nakai	クチナシ	○ ○
Maesa tenera Mez	シマイズセンリョウ	○	○	Hedyotis stigmulosa var. lutchuense	ソナレムグラ	○ ○
Primulaceae	サクラソウ科			Hedyotis tenelliflora Bl.	ケニオイグサ	○ ○
Anagallis arvensis f. coerulea Baumg.	ルリハコベ	+	○	Mussaenda parviflora Miq.	コンロンカ	○ ○
Androsace umbellata Merr.	リュウキュウコザクラ	○	○	Ophiorrhiza japonica Bl.	サツマイナモリ	○
Lysimachia japonica Thunb.	コナシバ	○	○	Paederia scandens Merr.	ヘクソカズラ	○ ○
Lysimachia mauritiana Lamk.	ハマボックス	○	○	Psychotria manillensis Bartl. ex DC.	ナガミボチヨウジ	○ ○
Plumbaginaceae	イソマツ科			Psychotria serpens L.	シラタマカズラ	○ ○
Limonium wrightii f. arbusculum Hatuseima	イソマツ	○	○	Tarona gracilipes Ohwi	ギョクシシカ	○ ○
Sapotaceae	アカナツ科			Caprifoliaceae	スイカズラ科	
Planchonella obovata Pierre	アカナツ	○	○	Lonicera affinis Hook.&Arn.	ハマニンドウ	○
Oleaceae	モクセイ科			Sambucus chinensis Lindl.	ソクズ	○ ○
Ligustrum japonicum Thunb.	ネズミモチ	○	○	Viburnum japonicum Spreng.	ハクサンボク	○
Ligustrum japonicum var. pubescens Koidz.	ケネズミモチ	○	○	Cucurbitaceae	ウリ科	
Ligustrum japonicum var. spathulatum	イワキ	○	○	Diplocyclos palmatus C. Jeffrey	オキナワスズメウリ	○ ○
Gentianaceae	リンドウ科			Gynostemma pentaphyllum Mak.	アマチャヅル	○ ○
Centaurium japonicum Druce	ホウライセンブリ	○	○	Trichosanthes rostrata Kitam.	ケカラスウリ	○
Gentiana squarrosa var. fiukuensis Hatuseima	リュウキュウコケリンドウ	○	○	Campanulaceae	キキョウ科	
Swerlia tashiroi Mak.	ヘツカリンドウ	○	○	Wahlenbergia marginata A. DC.	ヒナギキョウ	○ ○
Apocynaceae	キョウチクトウ科			Goodeniaceae	クサトベラ科	
Anodendron affine Druce	サカキカズラ	○	○	Scaevola taccada Roxb.	クサトベラ	○ ○
Trachelospermum asiaticum var. fiukuense Hatusei	リュウキュウテイカカズラ	○	○	Compositae	キク科	
Asclepiadaceae	ガガイモ科			Adenostemma laevius O. K.	ヌマダイコン	○ ○
Asclepias curassavica L.	トウワタ	+	○	Artemisia indica var. orientalis Hara	ニシヨモギ	○
Hoya carnea R. Br.	サクララン	○	○	Artemisia japonica Thunb.	オトコヨモギ	○ ○
Marsdenia tinctoria var. tomentosa Masamune	ソメモノカズラ	○	○	Artemisia princeps Pamp.	ヨモギ	○ ○
Marsdenia tomentosa Morr.&Decne.	キジョラン	○	○	Bidens pilosa var. minor Scherff	シロバナセンダングサ	+
Stephanotis lutchuensis	オキナワシタキソウ	○	○	Bidens tripartita L.	タウコギ	○ ○
Tylophora japonica Miq.	トキワカモメヅル	○	○	Blumea conspicua Hay.	オオキバナムカシヨモギ	○
Tylophora tanakae Maxim.	ツルモウリンカ	○	○	Blumea hieracifolia DC.	タカサゴユヅリナ	▼
Convolvulaceae	ヒルガオ科			Blumea laevis DC.	ヤエヤマコウゾリナ	○
Calyptegia sokianella Roem.&Schult.	ハマヒルガオ	○	○	Carpesium abrotanoides L.	ヤブタバコ	○
Convolvulus arvensis L.	セイヨウヒルガオ	+	○	Carpesium cernuum L.	コヤブタバコ	○
Dichondra repens J. R.&G. Forst.	アオイゴケ	○	○	Carpesium glossophyllum Maxim.	サジガクキビソウ	○
Erycibe henryi Prain	ホルトカズラ	○	○	Centipeda minima A. Br.&Aschers.	トキンソウ	○ ○
Ipomoea acuminata Roem.&Schult.	ノアサガオ	○	○	Cirsium brevicaulis A. Gray	シマアザミ	○ ○
Ipomoea pes-caprae ssp. brasiliensis Oostat.	グンバイヒルガオ	○	○	Coryza japonica Less.	イズハコ	○
Boraginaceae	ムラサキ科			Coryza sumatrensis Walker.	オオアレチノギク	+
Bothriospermum tenellum Fisch.&Mey.	ハナイバナ	○	○	Crassocephalum crepidioides S. Moore	ベニバナボロギク	+
Echreia dickenii Hance	マルバチシャノキ	▼	○	Crepidiastrum lanceolatum Nakai	ホソバワダン	○ ○
Messerschmidia argentea Johnston.	モンバナノキ	○	○	Dendranthema ornatum Kitam.	サツマノギク	▲?
Callicarpa japonica var. luxurians Rehd.	オオムラサキシキブ	○	○	Dichrocephala integrifolia O.K.	ブクリュウサイ	○
Clerodendron inerme Gaertn.	イボクササギ	○	○	Eclipta prostrata L.	タカサプロウ	○ ○
Clerodendron irichotomum var. esculentum Maxim.	ショウロウクサギ	○	○	Eriola sonchifolia DC.	ウスベニゴナ	○
Phyla nodiflora Greene	イワダレソウ	○	○	Erechthites hieracifolia var. caecilioides Griesb.	ウシノタケダグサ	+
Verbena officinalis L.	クマツヅラ	○	○	Erigeron canadensis L.	ヒメムカシヨモギ	+
Vitex rotundifolia L. f.	ハマゴウ	○	○	Eupatorium variable Mak.	ヤマヒヨドリ	○ ○
Vitex trifolia L.	ミツバハマゴウ	○	○	Farfugium japonicum Kitam.	ツワブキ	○ ○
Labiatae	シソ科			Gnaphalium affine D.Don	ハハコグサ	○
Ajuga decumbens Thunb.	ネランソウ	○	○	Gnaphalium japonicum Thunb.	チヂクグサ	○ ○
Ajuga pygmaea A. Gray	ヒメネランソウ	○	○	Hemistepia lyrata Bunge	キツネアザミ	○
Clinopodium confine O. K.	トウバナ	○	○	Ixeris debilis A. Gray	オオジシバリ	○ ○
Clinopodium umbrosum C.Koch	オキナワククルマバナ	○	○	Ixeris polyccephala Cass.	ノニガナ	○
Lamium chinense var. tuberiferum Murata	ヒメキセフタ	○	○	Ixeris repens A. Gray	ハマニガナ	○ ○
Leucas mollissima ssp. chinensis Murata	ヤンバルツルハツカ	○	○	Ixeris stolonifera A. Gray	ヒメジシバリ	○
Mosla dianthera Maxim.	ヒメジソ	○	○	Kalimeris indica Schultz-Bip.	インドヨメナ	○ ○
Perilla frutescens Britt.	エゴマ	+	○	Lactuca indica L.	アキノノゲシ	○ ○
Scutellaria guillelmi A. Gray	コナミキ	○	○	Lapsana apogonoides Maxim.	コヨニタヒラコ	○ ○
Teucrium viscidum Bl.	コニガクサ	○	○	Siegesbeckia orientalis L.	ツクシメナモミ	○ ○
Solaneaceae	ナス科			Solidago virga-aurea var. asiatica Nakai	アキノキリンソウ	○
Physalis angulata L.	センナリホウズキ	+	○	Sonchus oleraceus L.	ハルノノゲシ	+
Solanum biflorum Lour.	メジロホウズキ	○	○	Taraxacum japonicum Koidz.	カンサイタンボク	○
Solanum nigrum L.	イヌホウズキ	+	○	Vernonia cinerea Less.	ヤンバルヒゴタイ	○ ○
Tubocapsicum anomalum var. obtusum Mak.	マルバハダカホウズキ	○	○	Wedelia biflora var. ryukyensis H. Koyama	オオキダチハマグルマ	○ ○
Scrophulariaceae	ゴマノハダ科			Wedelia chinensis Merr.	クマノギク	○ ○
Limnophila chinensis ssp. aromatica Yamazaki	シソクサ	○	○	Wedelia prostrata Hemsl.	ハマグルマ	○
Lindernia antipoda Aleton	スズメノトウガラシ	○	○	Xanthium strumarium L.	オナモミ	+
Lindernia micrantha D.Don	アゼトウガラシ	○	○	Youngia japonica DC.	オニタヒラコ	○ ○
Lindernia crustacea	ウリクサ	○	○	MONOCOTYLEDONEAE	単子葉植物	
Lindernia procumbens	アゼナ	○	○	Pandanaceae	タクノキ科	
Mazus pumilus v. Steenis	トキワハゼ	○	○	Pandanus odoratissimus L. f.	アダン	○ ○
Veronica didyma Tenore	イヌノフグリ	○	○	Potamogetonaceae	ヒルムシロ科	
Veronica javanica Bl.	ハマクワガタ	○	○	Potamogeton distinctus A.Benn.	ヒルムシロ	○
Orobanchaceae	ハマウツボ科			Najadaceae	イバラモ科	
Aeginetia indica L.	ナンバンギセル	○	○	Najas minor All.	トリグモ	○
Orobanche coerulescens Steph.	ハマウツボ	○	○	Alismataceae	オモダカ科	
Acenthaceae	キツネノマゴ科			Alisma canaliculatum A. Br.&Bouche	へらオモダカ	○
Codonacanthus pauciflorus Nees	アリモリソウ	○	○	Gramineae	イネ科	
Justicia procumbens L.	キツネノマゴ	○	○	Agropyron tsukushiense var. taniensis Ohwi	カモジグサ	○
Justicia procumbens var. fiukuensis Yamamoto	キツネノヒマゴ	▼	○	Agrostis clavata Trin.	ヤマヌカバ	○
Strobilanthes tashiroi Hay.	オキナワスズムシソウ	○	○	Agrostis clavata ssp. matsumurae Tateoka	ヌカバ	○
Plantaginaceae	オオバコ科			Alopecurus aequalis Sobol.	スズメノテッポウ	○
Plantago asiatica L.	オオバコ	○	○	Arthraxon hispidum Mak.	コブナグサ	○ ○
Rubiaceae	アカネ科			Anundo donax L.	ダンチク	○ ○
Damnacanthus indicus var. intermedius Matsur	ピンシジュズネノキ	○	○	Avana fatua L.	カラスムギ	+
				Bambusa glaucescens Munro ex Merr.	ホウライチク	+

Bambusa vulgaris Schrad. ex Wendl.	ダイサンチク	+	○	Cyperus tenuispica Steud.	ミスハナビ	○
Bothriochloa parviflora Ohwi	ヒメアブラスキ	○	○	Eleocharis acicularis f. longisetata T.Koyama	マツパイ	○ ○
Briza minor L.	ヒメコパンソウ	+		Eleocharis attenuata Palla	セイタカハリイ	○ ○
Chloris gayana Kunth	アフリカヒゲシバ	+	○	Eleocharis congesta f. dolichochaeta T.Koyama	オオハリイ	○ ○
Colt lacryma Jobl L.	ジュズダマ	+		Eleocharis congesta ssp. japonica T. Koyama	ハリイ	○ ○
Cymbopogon tortilis var. goeringii Handel-Mazz	オカルカヤ	○	○	Eleocharis dulcis Trin.	イヌクログワイ	○ ○
Cynodon dactylon Pers.	キョウギシバ	○	○	Fimbristylis cymosa var. spathacea T. Koyama	シオカゼテンツキ	○ ○
Digitaria ciliaris Koel.	メヒシバ	○	○	Fimbristylis dichotoma f. floribunda Ohwi	クグテンツキ	○ ○
Digitaria radicea Miq.	コメシバ	○	○	Fimbristylis millacea Vahl	ヒデリコ	○ ○
Ecoelolopus colulifer A. Camus	アブラスキ	○		Fimbristylis ovata Kern	ヤリテンツキ	○ ○
Echinochloa colona Link	ワセビエ	▼		Fimbristylis sieboldii Miq.	イソヤマテンツキ	○ ○
Echinochloa crus-galli P.Beauv.	イヌビエ	○	○	Fuirena ciliaris Roxb.	クロタマガヤツリ	○ ○
Eleusine indica Gaertn.	オヒシバ	+	○	Rhynchospora rubra Mak.	イガクサ	○ ○
Eragrostis cumingii Steud.	イトスズメガヤ	○		Scirpus juncooides Roxb.	イヌホタルイ	○ ○
Eragrostis japonica Trin.	コゴメカゼクサ	○		Scirpus mucronatus var. robustus T.Koyama	ウシガレイ	○ ○
Eragrostis multicaulis Steud.	ニワホコリ	+		Scirpus tematanus Reinw.	オオアブラガヤ	○ ○
Hackelochloa granularis O. K.	ヤエガヤ	○		Scleria terrestris Fasset	オオシシユガヤ	○ ○
Imperata cylindrica var. major C. E. Hubb.	チガヤ	○	○	Arennga tremulus var. engelii Hatusime	クロツグ	○ ○
Isachne globosa O. K.	チゴザサ	○	○	Livistona chinensis var. subglobosa Becc.	ピロウ	○ ○
Ischaemum aureum Hack.	ハナカモノノシ	○	○	Araceae	サトイモ科	
Leptochloa panicola Ohwi	イトアゼガヤ	○	○	Alocasia odra Spach	クワズイモ	○ ○
Lophatherum gracile Brongn.	ササクサ	○	○	Arisaema ringens Schott	ムサシアブミ	○ ○
Microstegium ciliatum A. Camus	オオササガヤ	○		Arisaema thunbergii Bl.	ナンゴクウラシマソウ	▲
Microstegium japonicum Koidz.	ササガヤ	○		Pinellia tripartita Schott	オオハンゲ	○ ○
Miscanthus sinensis Anders.	ススキ	○	○	Thphonium divaricatum Decne	リュウキュウハンゲ	○ ○
Miscanthus sinensis var. condensatus Mak.	ハチジョウススキ	○	○	Lernaeaceae	ウネグサ科	
Opismenus compositus P.Beauv.	エダウチヂミザサ	○	○	Lerna aequinoctialis Wehw.	ナンゴクアオウキクサ	○ ○
Opismenus compositus var. patens Ohwi	オオバチヂミザサ	○	○	Spirodela polyrrhiza Schleid.	ウキクサ	○ ○
Opismenus undulatifolius Roem.&Schult.	(ケ)チヂミザサ	○		Flagellariaceae	トウヅルモドキ科	
Opismenus undulatifolius var. japonicus Koidz.	コチヂミザサ	○		Flagellaria indica L.	トウヅルモドキ	▼ ○
Panicum ripens L.	ハイキビ	○	○	Eriocaulaceae	ホシクサ科	
Paspalum dilatatum Poir.	シマズメノヒエ	+	○	Eriocaulon chinense var. sieboldianum T.Koyama	ホシクサ	○ ○
Paspalum orbiculare Forst.f.	スズメノヒエ	○	○	Commelinaceae	ツユクサ科	
Paspalum thunbergii Kunth	スズメノヒエ	○	○	Commelina benghalensis L.	マルバツユクサ	○ ○
Paspalum vaginatum Sw.	サウスズメノヒエ	○		Commelina communis L.	ツユクサ	○ ○
Pennisetum alopecuroides f. viridescens Ohwi	アオチカラシバ	○		Commelina diffusa Burm. f.	シマツユクサ	○ ○
Pleoblastus linearis Nakai	リュウキュウチク	○	○	Murdannia keiskei Handel-Mazz.	イボクサ	○ ○
Poa acroleuca Steud.	ミゾイチゴツナギ	○		Murdannia loriformis R.Rao&Kammathy	シマイボクサ	○ ○
Poa annua L.	スズメノカタビラ	+		Pontederiaceae	ミスアオイ科	
Pogonatherum orinatum Kunth	イタチガヤ	○	○	Monochoria vaginalis Presl ex Kunth	コナギ	○ ○
Polyopogon monspeliensis Desf.	ハマヒエガエリ	○		Juncaceae	イグサ科	
Sacciolepis indica Chase	ハイヌメリ	○		Juncus effusus var. decolorans Buchen.	イ	○ ○
Sacciolepis indica var. oryzetora Ohwi	ヌメリグサ	○	○	Juncus leschenaultii Gay	コウガイゼキショウ	○ ○
Setaria glauca var. pallide-fusca T.Koyama	コツブキエノコロ	○	○	Juncus monticola Steud.	コモチウガイゼキショウ	○ ○
Setaria verticillata P.Beauv.	ザラツキエノコロ	+		Luzula capillata Miq.	スズメノヤリ	○ ○
Setaria viridis L.	エノコログサ	○	○	Liliaceae	ユリ科	
Setaria viridis var. pachystachys Mak.&Nemoto	ハマエノコロ	○	○	Allium grayi Regel	ノビル	○ ○
Sphindax littorea Merr.	ツキイゲ	○		Asparagus cochinchinensis Merr.	クサシギズラ	○ ○
Sporobolus diander P.Beauv.	フタシベネズミノオ	○		Dianella ensifolia f. racemiflora Liu&Ying	キキョウラン	○ ○
Sporobolus fertilis W. D. Clayton	ネズミノオ	○	○	Heterosmilax japonica Kunth	カラスギバサンケライ	○ ○
Thuarea involuta Roem.&Schult.	クロイワザサ	○	○	Lilium leichlinii f. pseudoflorinum Hara&Kitam.	コオニユリ	○ ○
Zoysia matrella var. pacifica Goudswaard	コウライシバ	○	○	Lilium longiflorum Thunb.	テッポウユリ	○ ○
Zoysia sinica Hance	コオニシバ	○	○	Liriope muscari Bailey	ヤブラン	○ ○
Zoysia sinica var. nipponica Ohwi	ナガミノオニシバ	▲	○	Ophiopogon jaburan Lodd.	ノシラン	○ ○
Cyperaceae	カヤツリグサ科			Scilla scilloides Druce	ツルホ	○ ○
Carex suboarnus Ohwi	ツクシナルコスグ	▲		Smilax bracteata Presl	サツマサンケライ	○ ○
Carex breviculmis R. Br.	アオスグ	○		Smilax sebiana Miq.	ハマサルトリイバラ	○ ○
Carex breviculmis f. filiculmis K. Koenig	イトアオスグ	○		Amaryllidaceae	ヒガンバナ科	
Carex breviculmis var. discoides Boott	ヒメアオスグ	○		Crinum asiaticum var. japonicum Baker	ハマオモト	○ ○
Carex breviculmis var. fibrillosa K. Koenig	ハマアオスグ	○	○	Curculigo orchilloides Gaertn.	キンバイザサ	○ ○
Carex brunnea Thunb.	ゴゴメスグ	○	○	Zephyranthes carinata Herbert	サフランモドキ	+
Carex conica var. scabrocaudata T. Koyama	トカラカスグ	▲		Dioscorea bulbifera L.	ニガカシュウ	○ ○
Carex gibba Wahlenb.	マスカサ	▲		Dioscorea pseudo-japonica Hay.	キールヤマノイモ	○ ○
Carex ischnostachya Steud.	ジュズスグ	○		Iridaceae	アヤメ科	
Carex ischnostachya var. fastigiata T. Koyama	オキキウジュズスグ	○		Belamcanda chinensis DC.	ヒオオギ	○ ○
Carex japonica var. chlorostachys K. Koenig	シラスグ	○	○	Tritonia crocosmaeflora Lemoine	ヒメヒオオギズイセン	+
Carex kobomugi Ohwi	コウボウムギ	○		Musaceae	バショウ科	
Carex lenta D.Don	ナケリスグ	▲		Musa balbisiana Colla	イトバショウ	+
Carex macrandrolepis L.思.	カタスグ	▲		Zingiberaceae	ショウガ科	
Carex maculata Boott	タチスグ	○		Alpinia intermedia Gagnep.	アオノクマタケラン	○ ○
Carex makinoensis Franch.	イワカスグ	▲		Alpinia speciosa K. Schum.	ゲットウ	+
Carex matsumurae Franch.	キノクニスグ	▲		Orchidaceae	ラン科	
Carex nemostachys Steud.	アキカスグ	○		Amiostigma lepidum Schltr.	オキナウチドリ	○ ○
Carex phacota Spreng.	ヒメゴウソウ	○		Gastrodia nipponica Tuyama	ハルザキヤツシロラン	○ ○
Carex pumila Thunb.	コウボウシバ	○	○	Goodyera hachijoenis var. matsumurana Ohwi	カゴメラン	○ ○
Carex sakonii T. Koyama	サコスグ	▼		Habenaria polytricha Rolfe	リュウキュウサギソウ	▼
Carex satsumensis F.&Sav.	アブラシバ	▲		Habenaria robustior Hook.f.	ムカゴトシボ	○ ○
Carex tristachya Thunb.	モエギスグ	▲		Liparis blubericulata var. foliosana Rindl.	ユコクラシ	○ ○
Carex wahuensis var. robusta Fr.&Sav.	ヒグスグ	○	○	Luisia teres Bl.	ボウラン	○ ○
Cladium jamaicense ssp. chinense T.Koyama	ヒトモトススキ	○	○	Microtis unifolia Reichb. f.	ニラパン	○ ○
Cyperus brevifolius Hassk.	アイダクグ	○		Platanthera amamiensis Ohwi	アマミトンボ	○ ○
Cyperus brevifolius var. leirolepis T. Koyama	ヒメクグ	○	○	Sedirea japonica Garay&Sweet	ナゴラン	○ ○
Cyperus compressus L.	クグガヤツリ	○		Spiranthes sinensis var. australis Hara&Kitam.	ネジバナ	○ ○
Cyperus cyperoides O. K.	クグ	○		Zeuxine flava Benth.	イシガキキヌラン	○ ○
Cyperus difformis L.	タマガヤツリ	○				
Cyperus flavus Retz.	アゼガヤツリ	○				
Cyperus haepan L.	コアゼガヤツリ	○				
Cyperus iria L.	コゴメガヤツリ	○	○			
Cyperus malaccensis ssp. monophyllus T.Koyama	シチトウイ	○				
Cyperus pilosus Vahl	オニガヤツリ	○				
Cyperus polystachyos Rottb.	イガガヤツリ	○				
Cyperus rotundus L.	ハマスグ	○	○			
Cyperus sanguinolentus Vahl	(ナンゴク)カワラスガナ	○				

2 植物群落調査

宝島の植物群落を把握するため、典型的な植分を選び104地点(図-3)で植生調査を実施した。既発表資料を基に植物社会学的考察を加えて以下の群落単位の確認ができた。

A 自然植生

(A) 高木林

- 1 ビロウ群落
- 2 モクタチバナータブノキ群落
- 3 オオクサボクーガジュマル群落
- 4 スダジイ群落

(B) 低木林

- 5 ホソバワダンーマルバニッケイ群集
- 6 アカテツーハマビワ群集
- 7 ケウバメガシ群落

(C) 熱帯性海岸林

- 8 モンパノキークサトベラ群集
- 9 オオハマボウ群落
- 10 アダン群集
- 11 ソテツ群落
- 12 ハウチワノキ群落

(D) 湿生低木林

- 13 ミツバハマゴウ群落
- 14 イボタクサギ群落

(E) 隆起サンゴ礁上植生

- 15 イソマツーモクビャッコウ群集
- 16 イソフサギ群集
- 17 テンノウメ群落
- 18 イソヤマテンツキ群集
- 19 ソナレムグラーコウライシバ群集

(F) 砂丘草原

- 20 ハマアズキーグンバイヒルガオ群集
- 21 コオニシバ群集
- 22 ハマニガナーハマヒルガオ群落
- 23 シロバナミヤコグサ群落
- 24 ハマゴウ群落
- 25 クロイワザサースナヅル群落
- 26 ハマボウフウーツキイゲ群集
- 27 オトコヨモギ群落
- 28 オキナワハイネズ群落

(G) 塩生湿地群落

- 29 ナガミノオニシバ群落
- 30 ヒトモトススキ群落

(H) 湿生地群落

- 31 ヒメミソハギースズメノトウガラシ群落
- 32 チゴザサ群落
- 33 テツホシダ群落
- 34 ハイキビ群落
- 35 タイワンカモノハシ群落
- 36 オオサクラタデ群落
- 37 ギョウギシバ群落

(I) 崖地植生

- 38 ボウラン群落
- 39 オオイタビ群落

B 代償植生

(J) 二次林

- 40 リュウキュウマツ群落
- 41 アカメガシワーカラスザンショウ群落
- 42 ギンネム群落

(K) 竹林

- 43 リュウキュウチク群落
- 44 ダンチク群落

(L) 植林

- 45 トクサバモクマオウ群落
- 46 アオノリュウゼツラン群落

(M) 林縁植物群落

- 47 ナンテンカズラ群落
- 48 ノアサガオ群落
- 49 トウヅルモドキ群落
- 50 クズ群落
- 51 オオキダチハマグルマ群集

(N) 忌避植物群落

- 52 テリハノイバラ群落
- 53 ホウロクイチゴーシマエンジュ群落
- 54 キングジカーシマイズセンリョウ群落

(O) 路傍植物群落

- 55 ホソバワダンーハチジョウススキ群落
- 56 チガヤ群落
- 57 ツルソバーカラムシ群落
- 58 ナピアグラス群落
- 59 トウワタ群落

(P) 路上植物群落

- 60 ギョウギシバ群落
- 61 カタバミ群落
- 62 アオイゴケ群落

(Q) 果樹園・畑作地雑草群落

- 63 ムラサキカタバミーリュウキュウハンゲ群落
- 64 オオバボンデンカーシマニシキソウ群落

(1)宝島植物群落解説

A 自然植生

(A) 高木林

1 ビロウ群落 (表-4, 図-4)

ビロウが第1層に総合優占度4から5で優占する群落で、モクタチバナ、タブノキ、フカノキ、ショウベンノキなどの被度も高い。種組成的にはモクタチバナ-タブノキ群落の典型下位単位と見なすこともできる。比較的大きな群落はセング港近くの風見権現や女神山を同心円上に取り囲むような位置に分布している。

本群落は高木層から草本層までビロウが高被度で分布し、林床はビロウの落葉で覆われ他植物の生育が阻まれるため、平均構成種数も23種と単純な林相になる。

2 モクタチバナ-タブノキ群落 (表-4, 図-5)

モクタチバナあるいはタブノキが高木層に優占する群落で、ヨゴレイタチシダ、カツモウイノデ、トカラカンスゲ、シマイズセンリョウ、ツルグミ、ムサシアブミなどによって他群落とは識別される。土壌の堆積しやすい山脚部や低地部、凹地斜面に比較的広い群落が島の中心のイマキラ岳を取り囲むように形成されている。

宝島は古い起源の火山をサンゴ礁が取り巻き隆起してできた島である。石灰岩地帯及び塩基性の溶岩が風化して間もない土質であるため、潜在自然植生は本群落になるところが多い。古くから人が住みつき人為的な干渉も多かったため種組成も単純となり、平均構成種数は31種で宝島の他群落よりは多いが、口之島(38種)、中之島(34種)などに比較して少ない。

本群落中には大径木は少なく、ところによってはリュウキュウチクやリュウキュウマツも含み、二次林的な様相も持っており、純然たる自然植生とは言い難い。

3 オオクサボク-ガジュマル群落 (表-4, 図-6)

本群落は4層構造でガジュマルが第1層に優占し、ビロウ、リュウキュウエノキなどの被度も高い。ガジュマル、クスノハガシワ、オオイタビ、オキナワシタキソウ、リュウキュウエノキ、オオクサボクなどによって他群落とは識別される。群落内の隆起サンゴ礁の大半は未風化のまま表面に裸出しているが、一部風化して表土がつくられたところに植物は生育する。面積的には小規模な群落で、集落の周辺や西部海岸の山脚部の低地に分布する。林床にはガジュマルの気根が垂れ下がって縦横に根を伸ばすため特異な景観を持つ森林である。

平均構成種数は25.5種と表土が十分に形成されていないことを反映し、他群落より少ない。

4 スダジイ群落 (表-4, 図-7)

本群落はスダジイが高木層を優占する群落で、一般的には表土の浅い斜面の上部や尾根部に形成されやすい。

樹高20m、胸高直径60cmを越えるスダジイ6本前後からなる群落が、女神山とイマキラ岳の鞍

表一4 自然林 高木林

1 ビロウ群落

2 モクタチバナータブノキ群落

3 オオクサボクーガジュマル群落

4 スタジイ群落

Community Number:	群落番号	1			2			3		4	
Releve Number:	調査地点番号	12	23	24	97	98	99	32	82	34	
Locality:	調査年	99	99	99	99	99	99	99	99	99	
	月	11	11	11	11	11	11	11	11	11	
	日	20	21	21	23	23	23	21	23	21	
Altitude(m):	海拔高 (m)	70	60	70	60	120	210	20	20	60	
Exposure:	方位	N	S	SE	SW	S	W	W	W	-	
Slope (°):	傾斜 (°)	20	5	20	20	30	30	5	5		
Quadrat Size(m×m):	調査面積 (m ²)	400	400	225	400	400	400	400	300	225	
Tree layer(S)Height(m):	高木層の高さ (m)	16	18	18	19	16	15	18		18	
Coverage (%) :	植被率 (%)	80	70	80	80	90	95	90		90	
Sub Tree layer(S)Height(m):	亜高木層の高さ (m)	8	12	8	10	8	8	8	12	8	
Coverage (%) :	植被率 (%)	60	90	60	80	40	40	60	90	40	
Shrub layer(S)Height(m):	低木層の高さ (m)	4	5	4	4	4	4	5	5	3	
Coverage (%) :	植被率 (%)	30	60	40	30	60	30	60	60	60	
Herb Tree layer(T?)Height(m):	草本層の高さ (m)	1.5	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	0.5	0.5	0.5	
Coverage (%) :	植被率 (%)	20	30	10	5	60	40	10	20	30	
No. of species:	出現種数	25	25	19	22	39	31	22	29	18	
Diff. species of comm.:	群落区分種										
<i>Livistona chinensis</i> var. <i>subglobosa</i>	ビロウ	B1	4・4	4・4	4・4	1・1	・	1・1	3・3	・	1・1
		B2	3・3	2・2	3・3	1・1	1・1	・	・	1・1	・
		S	3・3	3・3	3・3	1・1	1・1	・	2・2	+	3・3
		K	・	・	・	・	・	・	2・2	・	・
<i>Ficus virgata</i>	ハイヌヅリ	B2	1・1	2・2	2・2	・	・	・	・	・	・
Diff. species of comm.:	群落区分種										
<i>Dryopteris sordidipes</i>	ヨコレイクシク	K	・	・	・	+	+2	+2	・	・	・
<i>Gardenia jasminoides</i> var. <i>grandiflora</i>	クナシ	S	・	・	・	+	+	+	・	・	・
<i>Maesa tenera</i>	シマズセンリョウ	S	・	・	・	+	+	1・1	・	・	・
<i>Carex brunnea</i>	トカクサグ	K	・	・	・	・	+2	+2	・	・	・
<i>Alocasia odra</i>	ムサシアブミ	K	・	・	・	・	+	+	・	・	・
<i>Elaeagnus glabra</i>	ツルクミ	S	・	・	・	・	+	+	・	・	・
Diff. species of comm.:	群落区分種										
<i>Ficus microcarpa</i>	ガジユマル	B2	・	・	・	・	・	・	2・2	4・4	・
		B1	・	・	・	・	・	・	3・3	・	・
<i>Stephanotis lutchuensis</i>	オキナワシキク	K	・	・	・	・	・	・	+	+	+
<i>Pisonia umbellifera</i>	オオサボク	S	+	・	・	・	・	・	2・2	2・2	・
<i>Celtis boninensis</i>	リュウキュウエノキ	B1	・	・	・	・	・	・	2・2	・	・
		S	・	・	・	・	・	・	・	1・1	・
		B2	・	1・1	・	・	・	・	・	・	・
<i>Ficus pumila</i>	オオイト	K	・	・	・	・	・	・	+2	・	・
		B2	・	・	・	・	・	・	・	+2	・
<i>Mallotus philippensis</i>	クスノカシ	S	・	・	・	・	・	・	2・2	・	・
		B2	・	・	・	・	・	・	・	1・1	・
Diff. species of comm.:	群落区分種										
<i>Castanopsis sieboldii</i>	スタジイ	B1	・	・	・	・	・	・	・	・	4・4
		S	・	・	・	・	・	・	・	・	2・2
Character species of <i>Camellia japonica</i> :	ヤブツバキクラスの種										
<i>Ardisia sieboldii</i>	モクタチバナ	B1	・	・	・	・	・	2・2	・	・	・
		B2	1・1	2・2	・	4・4	3・3	2・2	・	1・1	3・3
		S	1・1	2・2	2・2	2・2	・	2・2	1・1	2・2	・
<i>Alpinia intermedia</i>	アノクマカゲラン	K	2・2	2・3	2・3	1・2	3・3	2・3	+2	1・2	2・3
<i>Persea thunbergii</i>	タブノキ	B1	2・2	2・2	2・2	3・3	5・5	4・4	・	・	2・2
		B2	2・2	3・3	1・1	2・2	・	・	・	・	・
		S	・	・	・	・	1・1	・	・	1・1	・
<i>Trachelospermum asiaticum</i> var. <i>liukiteuse</i>	リュウキュウテウカスラ	B1	・	・	・	・	1・2	・	・	・	・
		B2	・	・	・	・	・	・	・	1・2	・
		S	・	1・1	・	・	+	+	・	・	・
		K	+	+2	・	+	+	1・1	+	+	2・2
<i>Piper kadsura</i>	フウトカスラ	B2	・	+	1・2	・	・	・	1・2	・	・
		S	・	+2	+	・	・	・	+2	・	・
		K	+2	・	・	・	+	1・2	1・2	2・3	+
<i>Schefflera octophylla</i>	フクキ	B1	1・1	・	1・1	・	・	2・2	・	・	・
		B2	・	2・2	1・1	1・1	2・2	2・2	・	・	・
		S	+	・	1・1	・	1・1	・	・	・	・
<i>Heterosmilax japonica</i>	カヌキバクシクイ	B2	・	・	・	・	+	・	・	1・2	・
		S	・	・	・	・	+2	・	・	+2	・
		K	+	+	+2	+	+	+	・	+2	・
<i>Neolisteia sericea</i>	シロダモ	B1	・	・	・	・	・	1・1	・	・	・
		B2	・	・	・	・	2・2	・	・	・	1・1
		S	1・1	・	・	1・1	2・2	+	+	・	・
<i>Turpinia ternata</i>	ショウハンキ	B2	1・1	1・1	1・1	・	・	1・1	・	・	・
		S	1・1	2・2	+	1・1	1・1	1・1	・	・	・
<i>Cinnamomum pseudo-pedunculatum</i>	ヤブシクイ	B2	1・1	・	・	+	1・1	1・1	・	1・1	・
		S	・	1・1	・	・	1・1	・	・	1・1	・
<i>Psychotria manillensis</i>	オカミナチヨウジ	S	+	+	1・1	・	・	・	+	2・2	1・1
<i>Smilax bracteata</i>	サツマシクイ	B2	・	・	・	・	・	・	・	・	+2
		S	・	+	+	・	・	+	+	・	・
		K	・	・	・	・	・	・	・	・	+
<i>Cyrtomium falcatum</i>	オキナワツ	K	+	・	・	・	+2	・	・	+	・

図-6 オオクサボク-ガジュマル群落断面模式図



図-7 スダジイ群落断面模式図

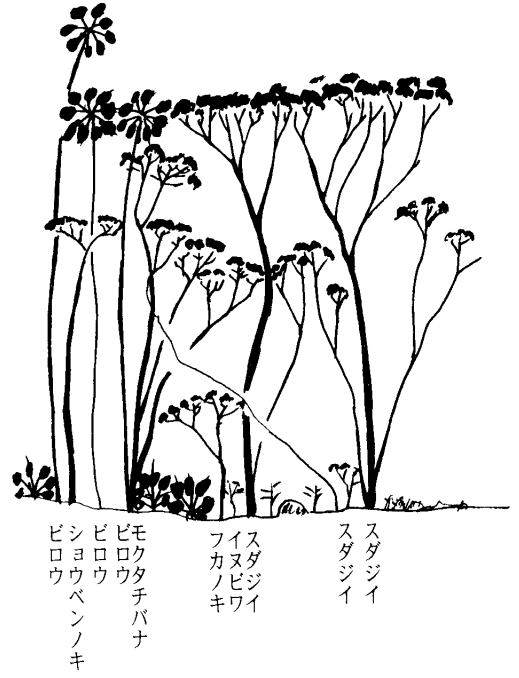


図-8 ケウバメガシ群落 (南斜面)

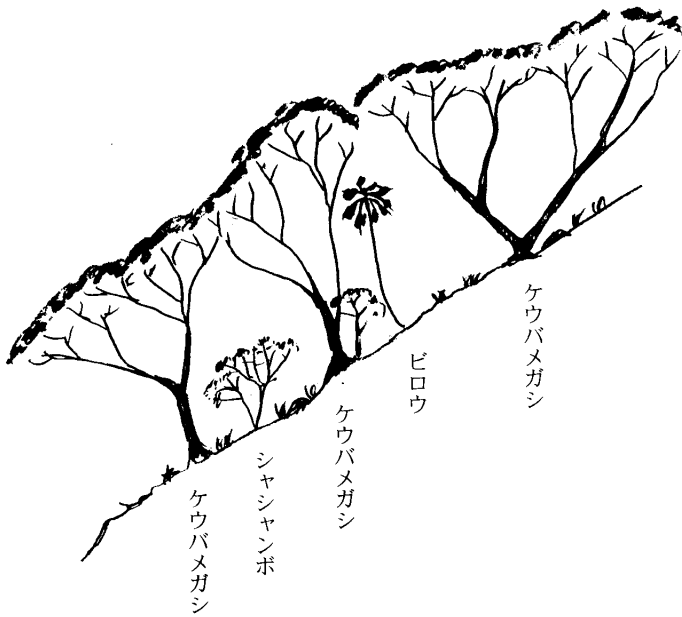
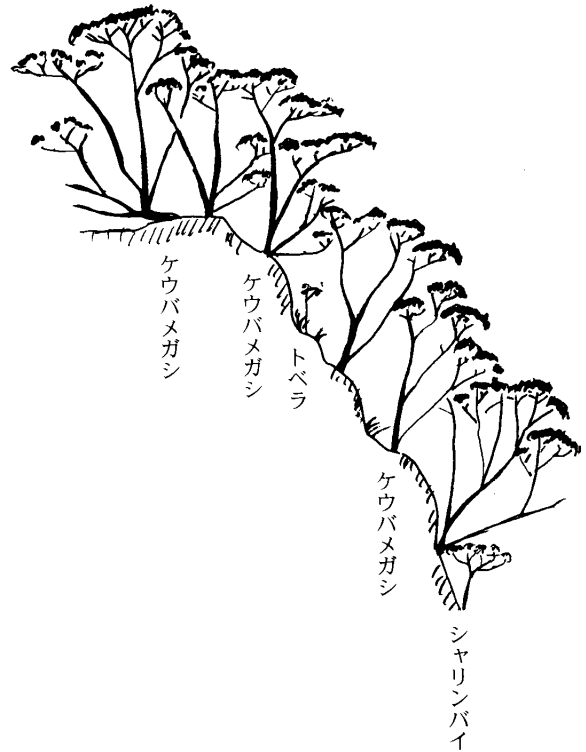


図-9 ケウバメガシ群落 (北斜面)



部の平坦地で調査された。スタジイが優占する群落ではあるが、トカラ列島に分布するギョクシンカースタジイ群集とは大きく異なり、モクタチバナ、タブノキ、ピロウの総合優占度が高く、モクタチバナータブノキ群落の典型下位単位のような群落である。

(B) 低木林（海岸性風衝低木林）

5 ホソバワダン-マルバニッケイ群集（表-5）

マルバニッケイは環境庁のレッドリストの絶滅危惧Ⅱ類に指定されているが、南西諸島では、海岸性風衝低木林として普遍的な群落を形成している。

ホソバワダン-マルバニッケイ群集は、海からの強い潮風によって成長が阻害されたマルバニッケイが被度4から5で優占する群落で、群落の高さは1から5m、2ないし3層構造をとる。

宝島での本群集はイワキ、ヒメユズリハ、ハマサルトリイバラ、ツルモオリンカを構成種に持つイワキ亜群集とそれらを含まず海の間近で群落高が1mにも満たないところに成立している典型亜群集に区分される。典型亜群集の平均構成種数は6種であるが、イワキ亜群集は表土も厚く、乾燥・風当たり等の条件も緩和されているため平均構成種数も14.3種と豊富になる。

6 ケウバメガシ群落（表-5，図-8,9）

ケウバメガシは備長炭の原料にされる硬葉樹の1種で、乾燥に耐性のあるブナ科の樹木である。鹿児島県内では、薩摩半島・大隅半島の一部、甌島、種子島、屋久島などの海岸の急傾斜地に分布し、トカラ列島ではわずかに宝島だけに分布し、奄美諸島には記録がないきわめて特異的な分布をしている。宝島では女神山の中腹の標高100mから山頂付近（130m）まで帽子をかぶるように本群落が分布する。

ケウバメガシ群落は群落の高さが3～8mある低木林ないし亜高木林で、ケウバメガシが第1層の低木あるいは亜高木層を総合優占度5で優占し、ほとんど他の樹木種が混在しない純林を形成する。他の群落とはボウラン、トカラカンスゲ、リュウキュウテイカズラなどで識別される。平均構成種数は15種と少ない。林内のケウバメガシは根際径が150cm前後で、地上1m前後で枝分かれを起こし、胸高直径が45～60cmの大径木数本からなる株もあり、特異な景観を持つ。草本層は、北西の急崖地は湿っているためは発達しているが、頂上付近は風が強く、岩盤や表土が裸出し乾燥しているため発達しない。

本群落中にはレッドリストの準絶滅危惧種のボウランが岩上や樹幹に群落を形成していたり、風通しがよく鳥の休憩地として最適な樹上でトカラハブがしばしばとぐろを巻いている姿に遭遇する。

7 アカテツ-ハマビワ群集（表-5）

海岸風衝地の低木林でハマビワ、シャリンバイ、ハマヒサカキ等の低木がマッキー状になって成立する群落には、九州から屋久島に分布しハマビワ、フウトウカズラ、ノシランを標徴種・区分種とするオニヤブソテツ-ハマビワ群集と、奄美諸島以南に分布しハマビワ、アカテツ、ハマ

表-5 低木林

5 ホソバワダン-マルバニッケイ群集

6 ケウバメガシ群落

7 アカテツ -ハマビワ群集

7-1 典型亜群集

7-2 グミモドキ亜群集

Community Number:	群落番号	5	5	5	6	7-1	7-2							
Relieve Number:	調査地点番号	15	19	86	83	91	92	27	28	29	25	69	63	61
	調査年月日	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99
Altitude (m):	海拔高 (m)	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
Exposure:	方位	E	E	NE	NE	NE	NE	NW	NW	SW	SW	SE	SE	SW
Slope (°):	傾斜 (°)	25	5	20	5	5	5	30	20	20	30	20	20	10
Quadrat Size (m×m):	調査面積 (㎡)	16	64	225	50	50	50	225	225	225	150	225	225	225
Tree layer(S)Height(m):	高木層の高さ (m)													
Coverage (%):	植被率 (%)			5		1.5	1.5	80	6.5			8	8	10
Sub Tree layer(S)Height(m):	亜高木層の高さ (m)							2	1.2	3.5	3.5	4	4	2
Coverage (%):	植被率 (%)			100	100	90	95	30	40	90	80	30	40	30
Shrub layer(S)Height(m):	低木層の高さ (m)							0.5	0.5	0.8	1.0	0.5	0.5	1.2
Coverage (%):	植被率 (%)			0.5	0.5	0.8	0.5	30	30	30	70	10	30	20
Herb Tree layer(T2)Height(m):	草本層の高さ (m)							80	90	3	1	10	30	20
Coverage (%):	植被率 (%)			8	4	13	11	18	15	15	16	23	25	17
No. of species:	出現種数													
Character species of ass.:	群集表徴種													
Cinnamomum daphnoides	マルバニッケイ	S		5+4	5+5	4+4	4+4							
Crepidiastrum lanceolatum Nakai	ホソバワダン	K	+											
Smilax sebeana Miq.	ハマササトイバラ	S		2+3	2+3		1+2							
Tylophora tanakae	ツルモリシカ	K												
Ligustrum japonicum var. spathulatum	イキ	S		2+2										
Daphniphy glaucescens ssp. teijismannii	ヒユスギヨハ	S			1+1		2+2							
Companions:	群落区分種													
Quercus phillyraeoides f. wrightii	クワハカシ	B2						5+5	5+4					
Luisia teres	ボウラン	S						2+2		5+5	1+1			
Carex conica var. scabrocaudata	トコランサゲ	S												
Trachelospermum asiaticum var. liukiuense	ヒメユキカズラ	K												
Character species of ass.:	群集表徴種													
Litsea japonica	ハマヒリ	B2										2+2		1+1
Cyrtomium falcatum	ホヤブクテツ	S												
Cinnamomum pseudo pedunculatum	ヤブニッケイ	S												
Planchonella obovata	アケボノ	B1											3+3	2+2
Croton cascerilloides	グミモドキ	S											1+1	1+1
Ococcus laurifolius	コウシュウウヤク	S												
Piper kadzura	フリトカスラ	S												
Companions:	随伴種													
Rhaphiolepis indica var. integerrima f. umbellata	シヤロハイ	S				1+2	3+3	+	2+2	+	4+4	+		
Pittosporum tobira	トベラ	S												
Miscanthus sinensis var. condensatus	ハシジョウスキ	K	1+1	+			1+1				1+2			
Livistona chinensis var. subglobosa	ヒトコ	B2						1+1					3+3	3+3
Paederia scandens	ヘクカスラ	S			1+2	+								
Heterosmilax japonica K	カラスギハサンケライ	K												
Elaeagnus macrophylla	マルバグミ	S												
Dianella ensifolia f. racemulifera	キキョウラン	B2												
Lepisorus thunbergianus Ching	アシタバ	K												
Pleioblastus linearis Nakai	リュウキウチク	S												
Ophiopogon jaburan Lodd.	ナンテン	K	1+1											
Lemnaphyllum microphyllum	マメグサ	B2												
Eurya emarginata	ハマヒサカキ	S				1+1	1+1							
Hoya carnosa	サクララン	K												
Gardenia jasminoides var. grandiflora	カサラン	S												
Psychotria serpens	シツクカスラ	S												
Cyrtia insularis	ミヤコシマツツラン	S			1+2									
Pandanus odoratissimus	アダン	K												
Tarenna gracilipes	ギョウシンカ	B2												
Euonymus japonicus	モウキ	S												
Carex wahuensis var. robusta	ヒゲサゲ	K												
Celastrus punctatus	ツルハハクモトキ	S												
Ardisia sieboldii	モクナチ	B2												
Ficus microcarpa	カシエマ	K												
Stephanotis lutchuensis	オトコバナ	B1												
Morus australis	シナガハ	B2												
Achyathes bidentata var. hachijouensis	ハシジョウコノコ	K												
Rhamnus liukiuensis	リュウキウカサキ	B2												

出現1回の種 Additional species occurring once in releve no 15: Wedelia biflora var. ryukyuenis 村松のハダクキ+2; Boehmeria gigantea 平野のクキ+; Hedycotis stigmula var. lutchuensis ツルハダクキ+; no 19: Asparagus cochinchinensis 刺藜カスラ+2; no 86: Pueraria lobata 丸シ+2, Cyclogramma acuminatus 刺藜カスラ+2, Bauhinia japonica 木綿カスラ+2; no 83: Vitis ficifolia 北のクワシ+2, Ipomoea pes-caprae ssp. brasiliensis シシトウキ+; no 91: Fimbristylis pacific 花テツキ, Digitaria henryi 北のクワシ+2, Korthalsella japonica ヒメハダクキ+; Juniperus lutchuensis 持持のヒノキ, Paspalum orbiculare 丸シシトウキ+, Sonchus oleraceus 雑草カスラ+; no 92: Ficus superba var. japonica 丸シシ, Elaeagnus umbellata 丸シシ+; no 27: Vaccinium bracteatum シシトウキ+; no 25: Ficus pumila 刺藜カスラ, Schefflera octophylla 丸シシ+1, Aranga tremula var. engleri カサラン+; no 69: Opismenus compositus 丸シシ+; Neolitsea sericea var. aurata シシトウキ+; no 29: Sedum formosum 持持のシシトウキ, Polygonum chinense 丸シシ+1, Leucas mollissima ssp. chinensis ツルハダクキ, Boehmeria nivea var. nipponica 丸シシ+, Centella asiatica 丸シシ+, Commelina diffusa シシトウキ+, Stephania japonica ハシジョウカスラ+; no 63: Ipomoea acuminata 丸シシ+; no 64: Alpinia intermedia 丸シシ+; no 61: Persea thunbergii 丸シシ+; no 61:3: S.

イヌビワ、ハマヒサカキ、シバニッケイ、サクララン等を標徴種・区分種とするアカテツ-ハマビワ群集がある。

宝島は両群集分布の境界地に位置し、構成種も両群集の構成種と特徴を持っているが、アカテツ、アダン、グミモドキ等の熱帯海岸性の植物の種を多く含むことから、アカテツ-ハマビワ群集に帰属させた。本群集はさらにグミモドキ、コウシュウウヤク、フウトウカズラを含むグミモドキ亜群集とそれらを含まない典型亜群集に下位単位が区分された。

本群集は小規模な群落が大半で舞立前の八幡神社跡周辺やセング港の近くの海岸部に分布する。

(C) 熱帯性海岸林

8 モンパノキ-クサトベラ群集 (表-6)

モンパノキは小宝島を北限とするムラサキ科の低木で、クサトベラは種子島を北限とするクサトベラ科の低木である。

モンパノキ-クサトベラ群集はモンパノキ、クサトベラを標徴種として熱帯の砂丘、岩礫海岸、隆起サンゴ礁上などに分布し、モンパノキあるいはクサトベラが優占する低木層と草本層の2層構造の群落である。モンパノキ、クサトベラとも厚い葉が繁るため草本層は発達しない。海側をハマゴウ群落あるいはハマボウフウツキイゲ群集に、内陸側をアダン群集に接することが多く、クロイワザサ、スナヅル等が随伴する。平均出現種数は6種。

宝島では西部の海岸でクサトベラが優占する群落を、荒木海岸ではモンパノキが優占する群落をしばしば見ることができる。

9 オオハマボウ群落 (表-6)

オオハマボウは種子島を北限として主に砂質地に繁茂するアオイ科の低木である。樹幹は縦横に匍匐し不定根を出す。海水や汽水の冠水に対して耐性があり、湿度の高いところで生態的適性がある。

オオハマボウ群落は2層構造で、1.5～3mの低木層をオオハマボウが総合優占度4～5で優占する。林冠は海側に隣接するアダン群集、内陸側に隣接するアカテツ-ハマビワ群集の構成種や海岸性の蔓植物であるアダン、シマグワ、ハマサルトリイバラ、エビヅル、ハカマカズラ、ノアサガオなどによって被覆される。葉が密に繁るため草本層は発達せず、植被率は数%で、また、オオハマボウに結びつく種はない。

アダン群集によって風が遮られた平坦地に群落をつくるが、畑地として開拓されているところが多いため大きな群落は少ない。西部の海岸では不連続ながら比較的大きな群落を見ることができる。東部のセング海岸や大池、小池の周りには小規模な群落が見られる。

10 アダン群集 (表-6)

アダンはトカラ列島の口之島を北限として分布しているタコノキ科の熱帯性海岸樹木で、樹幹が匍匐し、そこから不定根を縦横に出す。

アダンの群集は2層構造で、1～2.5 m前後の低木層をアダンが総合優占度5で優占し、他植物の混在はほとんど起こらない群落である。砂丘あるいは岩礫海岸、隆起サンゴ礁上に形成される。アダンの葉は密に付き林冠を密閉し、下層を遮蔽する。また落葉も分解しにくく、堆積して他植物の発芽・発根には厳しい環境となるため、草本層は発達しない。群落は海側を砂丘草原のクロイワザサ・スナヅル群落や熱帯海岸林のモンパノキ・クサトベラ群落に接し、幅5～10 mで、内陸側をオオハマボウ群落に接することが多い。

アダンの群集は葉が密に繁り、不定根が発達するため、防潮、防風林としての機能が高い。奄美諸島のアダンの群集は海岸部の開発や防潮堤などの工事で失われ、無惨な状況になっているところが多いが、宝島では、西部の海岸やセンゴ港周辺に長堤のように連なったものを見ることが出来る。また、「砂漠」中にある大池や小池を囲むように群落を形成している。

11 ソテツ群落（表-6）

ソテツは宮崎県都井岬を北限とする裸子植物で、起源も古くかつては地球で広く分布していたが、きわめて成長が遅いため、今では亜熱帯の風衝地帯にわずかに生き残っているにすぎない。

ソテツ群落は、ソテツが2～3 mの低木層に総合優占度4以上で優占する群落で、低木層と草本層の2層構造をとる。本群落は奄美大島では岩隙地や岩上地に、沖永良部島などでは隆起サンゴ礁上に群落を形成しているものを見るが、宝島では砂丘地にも群落を形成している。ソテツが低木層で優占するほか蔓植物のハカマカズラ、エビヅル、ナンテンカズラ等が、草本層にはスナヅル、クロイワザサ等が随伴する。平均出現種数は9種である。

12 ハウチワノキ群落（表-6）

ハウチワノキは種子島を北限とする低木で、県内では徳之島と種子島、宝島の砂丘地だけに生える。ハウチワノキ群落は1.5 mの高さのハウチワノキが低木層を総合優占度5で優占し、草本層にはスナヅル、ホソバワダン、オトコヨモギ等が随伴する。今回の調査では1カ所しか確認できず、種の結びつきは不明である。

(D) 湿生低木林

13 ミツバハマゴウ群落（表-7）

ミツバハマゴウは3 mにも達するクマツヅラ科の落葉低木で平島を北限として分布する。

ミツバハマゴウ群落は、ミツバハマゴウが総合優占度4以上で優占して砂丘地、湿地、水田や畑のあぜ道等に低木群落をつくる。随伴する種は、生育環境によって異なる。

休耕田に隣接する湿地につくられた群落はチゴザサ、キダチキンバイ、シラスゲなどが随伴し、冠水時間の長い湿地の群落はオオサクラタデとシマツユクサが低被度で点在し、路傍の群落はカタバミ、ツルソバ等が随伴する。東海岸の砂丘地の湿地、小池・大池の周辺で確認された。

表一6 熱帯性海岸林

8 モンパノキークサトバラ群集

9 オオハマボウ群集

10 アダン群集

11 ソテツ群落

12 ハウチワノキ群落

Community Number:	群落番号	8			9			10		11		12
Releve Number:	調査地点番号	75	78	61	72	65	48	45	50	60	87	
Locality:	調査年月日	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	
Altitude(m):	海拔高 (m)	22	22	22	21	22	21	21	21	21	23	
Exposure:	方位	5	5	4	5	4	3	3	3	5	8	
Slope (°):	傾斜 (°)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Quadrat Size(m×m):	調査面積 (m ²)	64	50	24	64	100	40	25	25	25	8	
Shrub layer(S)Height(m):	低木層の高さ (m)	2.0	1.95	1.95	2.2	3.0	3.0	3	3	3.0	1.5	
Coverage (%):	植被率 (%)	95	95	95	95	95	90	100	100	100	90	
Herb Tree layer(T-2)Height(m):	草本層の高さ (m)	0.2	1.2	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.05	0.5	0.5	
Coverage (%):	植被率 (%)	10	100	1	3	1	3	3	3	1	5	
No. of species:	出現種数	5	6	6	9	3	3	6	10	8	8	
Character species of ass.,:	群集標徴種											
Messerschmidia argentea	モンパノキ	K	+	4.4	
Scaevola taccada	カタヘラ	S	5.5	5.5	
Character species of ass.,:	群集標徴種											
Hibiscus tiliaceus	オオハマボウ	S	.	.	5.4	5.5	.	.	.	1.1	.	
Character species of ass.,:	群集標徴種											
Pandanus odoratissimus	タケ	K	
Diff. species of comm.:	群落区分種											
Cycas revoluta	ソテツ	K	.	.	1.1	1.1	5.5	.	.	1	.	
Diff. species of comm.:	群落区分種											
Dodonaea viscosa	カウカウ	K	
Companions	随伴種											
Cassytha filiformis	スナヅル	K	+	2	1.2	
Bauhinia japonica	ハマカスラ	S	
Thuarea involuta	クロイササ	K	1.2	.	+	2	
Vitis ficifolia	エビヅル	S	
Calystegia soldanella	ハマヒカサ	K	.	.	+	2	
Paederia scandens	ヘクカスラ	S	
Caesalpinia crista	ナンテンカスラ	S	
Smilax sebeana	ハマサトリイハ	S	
Sambucus chinensis	ソックス	K	

出現1回の種 Additional species occurring once in releve no.75: *Crinum asiaticum* ハマヒト K +, in 78: *Peucedanum japonicum* オオクマノリ K +, *Angelica japonica* ハマヒト K +, in 61: *Panicum repens* ハイヒ K +, *Ipomoea acuminata*, *ワサカ* オ K +, in 52: *Morus australis* シマクリ S 1.2, in 48: *Tylophora tanakae* カルモリガ K +, *Clerodendron trichotomum* var. *esculentum* シヨウワケギ S +, in 60: *Pueraria lobata* クス S +, *Commelina communis* フクギ K +, in 87: *Pinus thunbergii* クマツ S 1.1, *Crepidiastrum lanceolatum* オホクワケン K +, *Artemisia japonica* コトモギ K 1.2, *Lysimachia mauritiana* ハマヒツキ K +, *Sonchus oleraceus* ハルノカシ K +

表一7 湿生低木林

13 ミツバハマゴウ群落

14 イボタクサギ群落

Community Number:	群落番号	13			14	
Relevé Number:	調査地点番号	104	110	113	107	109
Locality:	調査年月日	99	99	99	99	99
Altitude(m):	海拔高 (m)	11	11	11	11	11
Exposure:	方位	24	24	24	24	24
Slope (°):	傾斜 (°)	8	7	5	10	8
Quadrat Size(m×m):	調査面積 (m ²)	-	-	-	-	SE
Shrub layer(S)Height(m):	低木層の高さ (m)	40	40	40	25	25
Coverage (%):	植被率 (%)	2.5	2.2	2.5	-	1.5
Herb Tree layer(T-2)Height(m):	草本層の高さ (m)	80	95	90	-	80
Coverage (%):	植被率 (%)	0.5	0.5	1.0	1.5	0.5
No. of species:	出現種数	70	10	2	100	20
Vitex trifolia	ミツバハマゴウ	S	5.4	5.5	5.5	.
		K	+	2	.	.
Clerodendron inerme	イボタクサギ	K	.	.	.	5.5
		S	.	.	.	5.4
Paederia scandens	ヘクカスラ	K	.	1.2	.	+
Oxalis corniculata	カタハミ	K	.	+	2	.
Polygonum chinense	ツルハ	K	+	2	.	.
Pittosporum tobira	トヘラ	S	.	1.1	.	.
Polygonum glabrum	オオサクラカデ	K	1.2	.	.	.
Commelina diffusa	シマウツギ	K	+	2	.	.
Artemisia japonica	コトモギ	K	.	.	.	1.2
Cassytha filiformis	スナヅル	K	.	.	.	1.1

出現1回の種: Additional species occurring once in releve no.104 *Carex japonica* var. *chlorostachys* シラスゲ K 1.2, *Cyclogramma acuminatus* ホシタ K 1.1, *Asclepias curassavica* トウワタ S +, *Isachne globosa* チョウササ K 4.4, *Ardisia sieboldii* ミカタチナ S +, *Ludwigia octovalvis* var. *sessiliflora* キタチキンハイ K +, *Hydrocotyle sibthorpioides* トノガサ K +, no. 110 *Rosa wichuraiana* *Leucaena leucocephala* de キンネ K +, S 1.1, *Tetralina* K +, *Osteomeles anthyllifolia* f. *subrotundata* シヤリンハイ S +, *Angelica japonica* ハマヒト K +, *Achyathes bidentata* var. *hachijensis* ハチジヨウイノコサチ K +, *Euonymus japonicus* マサキ S + in 107 *Ipomoea acuminata* *ワサカ* オ K +, *Panicum repens* ハイヒ K +, no 109 *Viola bryoceras* ツヤミレ K +, *Conyza sumatrensis* オオアサギ K +, *Cyperus rotundus* ハマスケ K +, *Celastrus punctatus* テリハウメトキ S 1.2, *Allium grayi* ヒメム K +, *Calystegia soldanella* ハマヒツキ K 1.2, *Liriope muscari* ヤブラン K +, *Artemisia princeps* ヨモギ K +, *Securinega suffruticosa* var. *amamiensis* イマミヒツハキ S 1.2

14 イボタクサギ群落 (表-7)

イボタクサギは1.5 mに達するクマツヅラ科の匍匐性の低木で、種子島が分布の北限となる。

イボタクサギ群落はイボタクサギが密生して優占する低木群落で、草本層は発達しない。少し窪んだ砂丘地で調査された。大規模な群落では随伴する植物の種は少ないが、小規模な群落は隣接する群落の影響で随伴する種も多くなる。ヘクソカズラ、シマツユクサ、オトコヨモギが常在した。

(E) 隆起サンゴ礁上植生

15 イソマツ-モクビャッコウ群集 (表-8)

イソマツは宇治群島以南に分布するイソマツ科の植物である。

本群集は高潮時に直接海水をかぶる隆起サンゴ礁の辺縁部にイソマツ1種が優占し、他種が混じらない単純で規模の小さな群落を形成する。高さは5 cm, 出穂時で20 cm前後となる。大瀬崎~鷲ヶ崎間と赤木崎の海水の飛沫をかぶる隆起サンゴ礁上で確認された。

16 イソフサギ群集 (表-8)

イソフサギは枕崎の板敷海岸を北限として分布するヒユ科の植物で、岩隙地に小規模な群落を形成する。

本群集は高潮時には直接海水をかぶる隆起サンゴ礁の岩隙地に数cmの高さでびっしりと隙間をふさぐように群落を形成する。イソフサギ1種が優占し、まれにソナレムグラが点在する。群落の面積は狭く10 cm四方程度の場合が多い。イソフサギは種子形成時に花床が大きく成長し赤く染まるため、秋季から冬季にかけては真赤な色を呈する。イソマツ-モクビャッコウ群集より大きな窪みがあるところに成立する。大瀬崎~鷲ヶ崎間の隆起サンゴ礁上で確認された。

17 テンノウメ群落

テンノウメは、白い1 cm前後の梅に似た花を咲かせるバラ科の植物で、環境庁のレッドリスト種の絶滅危惧Ⅱ類に該当する。かつて屋久島にも分布していたが採集によって絶滅し、現在小宝島が分布の北限となっている。

テンノウメ群落は、ほとんどしぶきをかぶらない隆起サンゴ礁上にテンノウメが匍匐して優占する群落である。群落の高さは30 cm前後、植被率60%前後で間隙が目立つ群落である。クサスギカズラ、ソナレムグラ、コウライシバが随伴する。琉球列島のテンノウメ群落はハリツルマサキ、テンノウメ、ヒメクマヤナギを標徴種・区分種とするハリツルマサキ-テンノウメ群集に群落単位が決定されている。宝島や小宝島ではハリツルマサキ、ヒメクマヤナギを欠くため同一の群落に所属するのか検討を要する。

赤木海岸と西海岸の舞立で数個体のテンノウメを確認したが、住民によるとかつては赤木海岸付近は多かったが園芸のための採集によって激減したとのことである。

表一8 隆起サンゴ礁上植生

15 イソフサギ群集

16 モクビヤッコウ-イソマツ群集

18 イソヤマテンツキ群集

Community Number:	群落番号	15	16	18
Revel Number:	地点番号	16	22	20
Locality:	調査年	99	99	99
	月	11	11	11
	日	20	20	20
Altitude(m):	海拔高 (m)	1	1	5
Exposure:	方位	-	-	-
Slope (°):	傾斜 (°)	-	-	-
Quadrat Size(m×m):	調査面積 (m ²)	1	1	3
Herb Tree layer(1-2)Height(m):	草本層の高さ (m)	0.03	0.2	0.5
Coverage (%):	植被率 (%)	40	30	80
No. of species:	出現種数	1	1	6
Character species of ass.:	群集標徴種			
Philoxerus wrightii	イソフサギ	K	3-4	-
Character species of ass.:	群集標徴種			
Limonium wrightii f. arbusculum	イソマツ	K	-	3-3
Diff. species of comm.:	群落区分種			
Fimbristylis sieboldii	イソヤマテンツキ	K	-	4-4

出現1回の種 Additional species occurring once in releve no.20 Tylophora tanakae
 フルモウリカ K +, Miscanthus sinensis var. condensatus ハシノユウスギ K +, 2, Hedyotis stigulosa var.
 lutchuense ツナレムグラ K +, 2, Lysimachia mauritiana ハマボウス K +, 2, Zoysia matrella var. pacifica
 コウライハ K 1-2

表一9 砂丘草原

19 ソナレムグラ-コウライシバ群集

20 ハマアズキー-ガンバイヒルガオ群集

21 コオニシバ群集

22 ハマニガナ-ハマヒルガオ群落

23 シロバナミヤコグサ群落

24 ハマゴウ群落

25 クロイワザサースナヅル群落

26 ツキイゲ群落

27 オトコヨモギ群落

28 オキナワハイネズ群落

Community Number:	群落番号	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28															
Revel Number:	地点番号	8	17	18	80	39	72	96	41	42	44	58	94	5	40	59	33	77	73	76	46	84	116	74	81	85
Locality:	調査年	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99
	月	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
	日	20	20	22	21	22	23	21	21	21	21	22	23	20	21	22	22	22	22	22	21	23	24	22	22	23
Exposure:	方位	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Slope (°):	傾斜 (°)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Altitude(m):	海拔高 (m)	5	100	400	100	50	100	40	4	4	4	10	5	15	1	4	2	4	3	4	3	5	6	3	5	5
Quadrat Size(m×m):	調査面積 (m ²)	25	100	400	100	50	100	40	4	4	4	10	5	15	1	4	2	4	3	4	3	5	6	3	5	5
Herb Tree layer(1-2)Height(m):	草本層の高さ (cm)	20	5	20	20	10	80	30	20	5	4	1	3	20	50	10	100	64	10	40	100	30	30	25	64	
Coverage (%):	植被率 (%)	80	30	80	90	100	80	80	60	40	30	40	30	95	80	80	80	30	30	50	80	30	30	30	50	30
No. of species:	出現種数	10	2	5	12	4	6	7	3	3	6	4	3	15	2	8	11	9	11	12	7	13	16	4	4	9
Character species of ass.	群集標徴種																									
Zoysia matrella var. pacifica	コウライハ	K	5-4	2-3	5-4	5-4	4-4
Hedyotis stigulosa var.	ツナレムグラ	K	+	2	+
Character species of ass.:	群集標徴種																									
Ipomoea pes-caprae ssp. brasiliensis	クハヒルガオ	K	2-2
Vigna marina	ハマボウ	K
Character species of ass.	群集標徴種																									
Zoysia sinica	コオニシバ	K	4-4	.	+
Diff. species of comm.:	群落区分種																									
Calystegia soldanella	ハシノユウスギ	K	2-3	3-3	1-2
Diff. species of comm.:	群落区分種																									
Ixeris repens	ハマニガナ	K
Diff. species of comm.:	群落区分種																									
Lotus australis	シロバナミヤコグサ	K	1-2
Diff. species of comm.:	群落区分種																									
Vitex rotundifolia	ハマゴウ	K
Diff. species of comm.:	群落区分種																									
Cassytha filiformis	スナヅル	K
Thuarea involuta	クロイワザサ	K
Diff. species of comm.:	群落区分種																									
Spinifex littoreus	ツキイゲ	K
Diff. species of comm.:	群落区分種																									
Artemisia japonica	オトコヨモギ	K
Diff. species of comm.:	群落区分種																									
Juniperus luchuensis	オキナワハイネズ	K
Companions:	随伴種																									
Crepidasitrum lanceolatum	カハヒルガオ	K	1-2
Miscanthus sinensis var. condensatus	ハシノユウスギ	K
Panicum repens	ハマボウ	K
Cyperus malaccensis ssp. monophyllus	シメツミ	K
Lysimachia mauritiana	ハマボウ	K
Oenothera laciniata	コマクサ	K
Scalaria viridis var. pachystachys	ハマヒルガオ	K
Pucedanum japonicum	ハマボウ	K
Pandanus odoratissimus	アマノハ	K
Glehnia littoralis	ハマボウ	K
Paederia scandens	ハマボウ	K
Euphorbia chamissonis	ハマボウ	K
Justicia procumbens var. riukiensis	ハマボウ	K
Cyperus rotundus	ハマボウ	K
Rosa wichurajana	ハマボウ	K
Ipomoea acuminata	ハマボウ	K
Tylophora tanakae	ハマボウ	K
Wedelia biflora var. ryukyensis	ハマボウ	K

出現1回の種 Additional species occurring once in releve no. 8 Fimbristylis cymosa var. spathacea シロバナミヤコグサ K +; no80; Sedum oryzifolium タイロコメ K +
 no 5: Euphorbia pseudochamaesyce シメツミ K +, Briza minor アヲカゲシバ K +, Paspalum urvillei カラスミ K +, 2, Anselicia japonica ハマボウ K +, Cynodon dactylon キノコ K +, 2
 Polygonum chinense カハヒルガオ K +, 2, Wedelia chinensis ツナレムグラ K +, 2, Phylla nodiflora ツナレムグラ K +, 2, no 59: Sporobolus virginicus ツナレムグラ K +, 2, Carex pumila ツナレムグラ K +, 2
 no 43: Oxalis corniculata カハヒルガオ K +, 2, no 77: Sambucus chinensis ツナレムグラ K +, no 76: Crinum asiaticum var. japonicum ハマボウ K +, Lilium longiflorum ツナレムグラ K +, Isachne
 globosa ハマボウ K +, no 46: Scilla scilloides ツナレムグラ K +, 2, no 84: Pittosporum tobira ツナレムグラ K +, Elaeagnus umbellata ツナレムグラ K +, Lactuca indica ツナレムグラ K +, Conyza
 sumatrensis ツナレムグラ K +, Eupatorium varabile ツナレムグラ K +, no 116: Erigeron pusillus ツナレムグラ K +, Euphorbia supina シメツミ K +, Lucaena leucocephala キノコ K +

18 イソヤマテンツキ群集（表－8）

イソヤマテンツキは千葉県以南の海岸に生える草本植物で、砂地あるいは岩隙地に群落を形成する。イソヤマテンツキ群集はイソヤマテンツキが草本層に優占する群落で、海側をソナレムグラ－コウライシバ群集に、内陸側をホソバワダン－マルバニッケイ群集に隣接する。有機物や砂が貯まった隆起サンゴ礁上に5 m²の規模で形成されていた。出現種の中にはコウライシバ、ソナレムグラ、ツルモウリンカなど隣接する群落の種が混在していた。

(F) 砂丘草原

19 ソナレムグラ－コウライシバ群集（表－9）

コウライシバは九州以南の海岸に分布し公園などの芝としても利用されるイネ科植物である。

ソナレムグラ－コウライシバ群集は南西諸島の隆起サンゴ礁の岩隙地あるいは岩上地に分布する。宝島ではコウライシバが砂丘地や隆起サンゴ礁の岩隙地や砂の貯まった岩上地に地下茎を伸ばしてびっしり生え、その中にソナレムグラ、ホソバワダン、ハマボッス、コマツヨイグサなどが生える。高潮時に冠水する頻度が高いところではソナレムグラとコウライシバだけの群落であるが、内陸に向かうにつれ出現種数は増える。西部の海岸では植生帯の最前線に幅は2～10 mで、長さが1 kmを越える連続した群落を見ることができる。群落の高さは10 cm内外で植被率は立地によって変化する。

20 ハマアズキーゲンバイヒルガオ群集（表－9）

ハマアズキは佐多以南に生えるマメ科植物で、ゲンバイヒルガオは四国以南に生えるヒルガオ科の植物である。

ハマアズキーゲンバイヒルガオ群集は南西諸島以南の砂丘地で植生帯の先端部に形成される蔓植物群落である。ハマアズキ、ゲンバイヒルガオを標徴種とし、ゲンバイヒルガオが優占する。

宝島ではセンゴ海岸や砂丘、西部海岸、赤木海岸等で普通に見られ、ハマヒルガオ、ハマゴウ、ハマエンドウなどの蔓植物を主体とする群落で内陸側でホソバワダン－ハチジョウススキ群落やスナヅル群落等に接する。平均出現種数は5.7種。

21 コオニシバ群集（表－9）

コオニシバは長崎鼻以南の亜熱帯の海岸に生える高さは10 cm内外のイネ科植物である。

本群集は砂丘の植生帯の先端部にコオニシバが総合優占度3以上で優占し、ハマヒルガオ、ポタンボウフウ等が混在する。群落の規模も1～2 m²程度と小規模である。

22 ハマニガナ－ハマヒルガオ群落（表－9）

砂丘の植生帯の先端部でハマヒルガオ、ハマニガナなどが優占する高さが10 cm程度の低茎の群落である。平均出現種数は4.5種、西部の海岸で調査された。

23 シロバナミヤコグサ群落（表－9）

シロバナミヤコグサは、奄美諸島以南の海岸に分布するマメ科植物で、小宝島が北限となる。

シロバナミヤコグサ群落はサンゴ礁が砕けたやや荒い砂地に総合優占度2～3でシロバナミヤコグサが優占し、ハチジョウススキ、ホソバワダン、ハイキビなどが低被度で混在する。群落の高さ20 cm、植被率30～40%のすいた群落で、センゴ海岸や西部の海岸の数カ所で確認した。

24 ハマゴウ群落（表－9）

ハマゴウは本州以南の砂丘地に分布し、長い地上枝を匍匐させて延ばすクマツヅラ科の矮性落葉低木である。

一般にハマゴウ群落は砂の移動が海岸砂丘上の草本植物によって減少したところにつくられるハマゴウの優占する群落である。調査番号5の群落は浜坂近くの海岸路傍に成立していたもので、路傍性の植物が混在している。調査番号40は西部海岸で砂丘の植生帯の先端に成立しており、種数が少ない。調査番号59の群落は西部海岸の舞立近くの砂丘地で海側をハマニガナーハマヒルガオ群落に接する群落である。

南九州のハマゴウ群落はハマゴウが優占し、チガヤ、オニシバ、コウボウムギ、ハマグルマ、ハマエンドウなどを組成に持ち屋久島以北に分布するチガヤーハマゴウ群集と、クロイワザサ、ハマナタマメ、グンバイヒルガオ、クサトベラを組成に持ち奄美諸島以南に分布するクロイワザサーハマゴウ群集とに群落単位がまとめられている。トカラ列島の資料を整理するとそのどちらの群落単位にも所属しない群落になるようであるが今後さらに検討を要する。

25 クロイワザサースナヅル群落（表－9）

スナヅルは種子島以南に分布し、海岸植物に寄生するクスノキ科のひも状をした蔓性植物で、シマネナシカズラとも言われている。寄生主に茎が接触すると、茎からでた不定根を寄り主に食い込ませ養分を頂戴する。スナヅルはハマオモト、ホソバワダン、シマアザミなどの草本植物だけでなく、約2 mの高さにまで茎を伸ばしてクサトベラ、ハマゴウ、ハウチワノキなどの木本植物にも寄生する。

クロイワザサースナヅル群落は、砂丘地植物群落にスナヅルが寄生し優占した群落で、立地によって種の組成が異なる。宝島の砂丘地海岸では普遍的な群落である。

26 ハマボウフーツキイゲ群集（表－9）

ツキイゲは葉身が堅くて鋭くとがり、花茎は球状で先端はとがり成熟すると脱落して風によって転がりながら種子分散を図ったり、地上枝を匍匐させて成長する特異なイネ科植物で、種子島以南の砂丘地に分布する。

本群落はツキイゲが優占し、クロイワザサ、ホソバワダン、シマアザミ、スナヅルが混生する。砂丘の傾斜が緩くなったところや凹地で内陸側をモンパノキークサトベラ群集、海側をクロイワザサースナヅル群落や、ソナレムグラークウライシバ群落に囲まれた有機物が堆積しやすい富栄

養な立地に成立している。赤木海岸、セング海岸では発達した群落を見ることができる。平均出現種数は11.5種。

27 オトコヨモギ群落 (表-9)

オトコヨモギは、九州本土では山地の路傍や原野に見られるキク科の植物で、群落をつくることはほとんど無いが、宝島では砂丘地に優占する群落がつくられている。

オトコヨモギ群落は砂の移動が停止した砂丘地にオトコヨモギが総合優占度4以上で優占する群落で、高さは30～70 cm、植被率は70～90%で夏季には100%前後まで発達する。平均出現種数は12種、オキナワハイネズ、テリハノイバラ、ハチジョウススキ、クロイワザサなどが混在する。赤木海岸や「砂漠」でやや広い群落が見られる。

28 オキナワハイネズ群落 (表-9)

オキナワハイネズは宇治群島を北限とするヒノキ科の匍匐性の樹木で、砂丘地や隆起サンゴ礁上に生える。

本群落は砂の移動が停止した砂丘地にオキナワハイネズが総合優占度4から5で優占し、カーペット状にしきつめた群落をつくる。平均出現種数は5.7種で、グンバイヒルガオ、ホソバワダン、スナヅル、ツキイゲなどが混在する。赤木海岸やその近傍の砂丘で普通に見られ、やや盛り上がった微地形の上部を選んで群落は成立している。

(G) 塩生湿地群落

29 ナガミノオニシバ群落 (表-10)

ナガミノオニシバは20 cm前後の高さで地下茎を伸ばして繁茂するイネ科の植物である。

ナガミノオニシバ群落はナガミノオニシバが優占する群落で汽水域に群落をつくる。そのため浸透圧の差に耐えられる種は少なく混在する種はコウライシバとイワタイゲキだけであった。西部海岸にある舞立の向かい側の通常は海水に浸からない隆起サンゴ礁上で、降雨時だけ沢から水が流れ汽水域となるとところに群落は成立していた。

30 ヒトモトススキ群落 (表-10)

ヒトモトススキは高さが2 mにも達するカヤツリグサ科の挺水植物で、亜熱帯から暖温帯までの汽水域から淡水域まで広く分布する。

ヒトモトススキ群落はヒトモトススキが叢生して優占する挺水植物群落で一般には泥湿地に成立する。調査地の群落は隆起サンゴ礁上のくぼみにできた湿地に形成された10 m²程度の小規模なもので、高波の時海水によって洗われるため有機物の堆積は少ない。群落の高さは0.8 m、植被率95%で本来のヒトモトススキ群落に比較して発達が悪い。テリハノイバラ、コウライシバ、ハナカモノハシ、ハマゴウなどの砂丘地の植物が混在していた。

(H) 湿生地群落

31 ヒメミソハギースズメノトウガラシ群落 (表-10)

本群落は稲を刈り取ったあとに形成された秋の水田雑草群落で、群落の高さは0.3～0.5 m、植被率は80～90%である。スズメノトウガラシ、ヒメミソハギ、タビエ、キカシグサ、ヒデリコ、アゼナ、キダチキンバイなどが常在する。

32 チゴザサ群落 (表-10)

常時湛水している休耕田や湿地には、チゴザサが密生し優占する群落が分布する。群落の高さは40～80 cmでハイキビがびっしりとカーペット状に覆い、タイワンカモノハシ、キダチキンバイ、チドメグサが常在する。平均出現種数は11.5種。砂丘内の湿地や女神山近くの休耕田で確認された。

33 テツホシダ群落 (表-10)

テツホシダは静岡県以南の日当たりの良い湿地に生える高さ50 cmほどのヒメシダ科の植物である。テツホシダ群落は休耕田などの湿地にテツホシダが密生して優占する群落で、タイワンカモノハシ、キダチキンバイ、クマノギク、ハイキビなどが随伴し、リュウキュウトロアオイ、トウワタなどが混在した。大池の近くの湿地で記録された。

34 ハイキビ群落 (表-10)

ハイキビは四国南部以南の海岸や休耕田などの湿地に群落をつくるイネ科植物で、高さは1 mに達し、数mにもなる長い地下茎を出す。

本群落はハイキビが優占する群落で、群落の高さは0.5～0.8 m、植被率80～100%と環境によって異なる。調査番号112は雨期に湛水する小池の内部で湛水時の深度が大きいいためオオサクラタデが1種が混在するだけであった。調査番号118は女神山近くの休耕田でチゴザサ、タイワンカモノハシ、イヌホタルイなどが随伴した。

35 タイワンカモノハシ群落 (表-10)

タイワンカモノハシは紀伊半島以南の湿地に生えるカモノハシの基本種である。タイワンカモノハシ群落はタイワンカモノハシが優占する草原で、女神山近くの放棄水田に群落を形成していた。群落の高さは80 cm、植被率100%で、随伴する種はクサネム、イヌホタルイ、チゴザサなどである。

36 オオサクラタデ群落 (表-10)

オオサクラタデは奄美大島以南の湿地に分布する大型のタデ科植物である。本群落はオオサクラタデが優占する群落で、雨期には湛水する小池の中心部で調査された。群落の高さは50 cm、群落の規模は約400 m²で湿地の群落としては大きい。オオサクラタデ1種からなる群落である。

表-12 二次林・竹林

40 リュウキュウマツ群落
42 ギンネム群落
44 ダンチク群落

41 アカメガシワ-カラスザンショウ群落
43 リュウキュウチク群落

Community Number:	群落番号	10	11	12	13	14						
Revel Number	調査地点番号	35	36	13	37	42						
Locality:	調査年	99	99	99	99	99						
Altitude (m):	月	11	11	11	11	11						
Exposure:	日	21	21	20	21	22						
Slope ():	方位	NE	SE	NE	N	SW						
Quadrat Size (m×m):	傾斜 (°)	15	15	10	20	5						
Tree layer (S) Height (m):	調査面積 (㎡)	400	400	30	50	24						
Coverage (%):	高木層の高さ (m)	25	18	-	-	-						
Sub Tree layer (S) Height (m):	高木層の被率 (%)	80	70	-	-	-						
Coverage (%):	亜高木層の高さ (m)	12	8	6	-	-						
Shrub layer (S) Height (m):	低木層の被率 (%)	40	60	50	-	-						
Coverage (%):	低木層の高さ (m)	4	4	1.5	3.5	5						
Herb Tree layer (T-2) Height (m):	草本層の被率 (%)	60	70	90	95	95						
Coverage (%):	草本層の高さ (m)	1.5	1.5	0.8	0.5	0.5						
No. of species:	出現種数	40	40	70	60	40						
Diff. species of comm.:	群落区分種	42	37	24	19	20						
Pinus luchuensis	リュウキュウマツ	B1	5・4	4・4
Gardenia jasminoides var. grandiflora	クチナシ	S	+	+
Daphniphyllum glaucescens ssp. teijsm.	ヒメスズリハ	S	2・2	1・1
Livistona chinensis var. subglobosa	ヒロウ	S	1・1	1・1
Neolisteia sericea	シロダモ	S	2・2	2・2
Cinnamomum pseudo-pedunculatum	ヤブニツゲイ	S	+	1・2
Litsea japonica	ハマビトリ	B2	1・1
Raphiolepis indica var. integerrima f. umbellata	シャリンハイ	S	2・2	2・2
Diff. species of comm.:		S	1・2	+
Mallotus japonicus	アカメガシワ	B2	1・1
Hibiscus mutabilis	サキシマフユ	S	2・2
Clerodendron trichotomum var. esculentum		B2	.	.	3・3
Rubus croceanthus	ショウロウサキ	S	.	.	4・4	5・5	.	.	.	1・2	.	.
Stephania japonica	オオハライチ	K	.	.	1・1
Pueraria lobata	ハスノハカスラ	S	.	.	+	1・2
Pleioblastus linearis	クヌ	K	.	.	+	+	2
Companion:	リュウキュウチク	S	2・2	1・2	1・1	1・2	1・1	.	.	.	5・5	.
Cyclogramma acuminatum	伴種											
Morus australis	ボシダ	K	+	2・2	3・3	3・3	2・2
Polygonum chinense	シマクワ	S	1・1	.	.	1・1	1・1	1・2
Alpinia intermedia	ツルソバ	K	.	.	2・3	.	1・2	+
Callicarpa japonica var. luxurians	アオノクマケラン	K	2・3	2・3	1・1	.	1・2
Nephrolepis auriculata	オオムラサキシキブ	S	.	.	+	1・1	.	+
Persea thunbergii	タマシダ	K	+	2	2・2	.	.	1・2
Schefflera octophylla	タブノキ	B2	2・2	3・3	2・2
Heterosmilax japonica	フカノキ	S	2・2	.	1・1	1・1
Ficus erecta Thunb.	カラスギハサンキライ	B2	1・1	1・1	.	1・1
Piper kadsura		S	2・2
Ipomoea acuminata		K	1・2	1・2	.	+	2
Miscanthus sinensis var. condensatus		B2	+
Trachelospermum asiaticum var. liukiense	イモト	S	1・1	1・1	1・1
Carex brunnea	フクロウカスラ	K	+	2	2・3	+	2	3・3
Smilax sebiana	ノアサカ	K
Ardisia sieboldii	ハシシヨウススキ	S	3・3	+	2	.	.
Paederia scandens	リュウキュウテイカスラ	K	2・3	1・2	+	2	+
Kadsura japonica	ココメスケ	B1	+
Tylophora japonica	ハマサルトリイハラ	K
Hex integra		S	+
Rhus succedanea		B2	+
Gynostemma pentaphyllum		S	+

出現1回の種 Additional Species occurring once in releve no. 35: Tarenna gracilipes キョウサンカ S 1・1, Evodia glauca ハマセンガン S, B2, Psychotria rubra ヨコシ S, Croton cascarioides カミト S, Eurya emarginata ハマセキ S 2・2, Celastrus punctatus リハハルモト S, Tylophora tanaka ヨコシ K, ssp. chinensis トリアツキ S 1・2, Lygodium japonicum f. elongatum ナカハカ K, no. 36: Ctenitis subglandulosa カツモイイテ K, Mussaenda parviflora コシロシ S, Vitis ficifolia ヒツジ B2 1・1, Stephanotis lutchuensis オキナシタキツウ K, Psychotria serpens シクカマム S, K, Cyrtosium falcatum ヤブツツ K 1・2, Eupatorium variabile ツツ K, Cycas revoluta ツツ S 1・1, Neolitsea sericea var. aurata キシヨクモ B2 2・2, S2・2; no. 13: Artemisia japonica ヒギ K, Zanthoxylum ailanthoides カラスザンショウ B2 1・1, Celtis bioninensis リュウキュウノキ S 1・1, Urena lobata オオムラサキ K 3・3; no. 38: Boehmeria nivea var. nipponica カマシ K 1・2, Ficus pumila オイシ S 2・2, Melia azedarach テンガン S, K, Oxalis corymbosa アサキカハ K; no. 37: Rubus sieboldii ヨコシ K 1・1, Miscanthus sinensis ススキ K, Trichosanthes cucumeroides カスリ K, Angelica japonica ハマツ K, Solanum biflorum シノボシ K 1・1, no. 70: Leucaena leucocephala ナカ K 1・2, S5・4 Rosa wicturiana テリハノキ S 2・2, Elaeagnus umbellata ヒギ S 1・1, Pittosporum tobira ヨシ S 1・1, K, Euonymus japonicus アサキ K; no. 62: Pandanus odoratissimus テン S, Arundo donax ダンチク S 5・4, Oxalis corniculata カハ K 2・2, Scaevola taccada カハ S 2・2, Bidens pilosa var. minor シロハテンガン K, Lysimachia mauritiana ハマツ K, Sonchus oleraceus ノアサ K; no. 66: Lespedeza cuneata トハ K, Crepidium lanceolatum ナカ K, Securingea suffruticosa var. amamiensis ナカ K.

37 ギョウギシバ群落 (表-17)

小池の中心部には小規模ではあるがギョウギシバが優占する群落を確認された。群落の高さは20 cm、植被率は60%とやや空いた群落で、ハイキビが随伴する。ギョウギシバ群落は路上植物群落として普遍的であるが、河川の冠水草原群落としても度々観察される。

(I) 崖地植生

38 オオイタビ群落 (表-11)

オオイタビはクワ科の蔓性樹木で、幹から不定根を出し、他植物の幹や岩上に付着して群落をつくる。オオイタビ群落はオオイタビが優占し、オニヤブソテツが随伴する。路傍にあるためヘクソカズラ、ヤンバルツルマオ、ツルソバ、カラムシなどの路傍植物が混在する。調査地点は宝島の集落内でサンゴ礁の積まれた石垣にオオイタビが優占したものである。平均出現種数13種。

39 ボウラン群落 (表-11)

ボウランは通常樹幹に着生するラン科の植物で、環境庁の指定するレッドリスト種の準絶滅危惧種に当たる。ボウラン群落は女神山のケウバメガシ群落に接する南東斜面の急崖地になった岩上地で調査された。植被率60%と空いた群落で30 cm前後のボウランが優占し、ノキシノブ、マメツタが随伴する。

B 代償植生

(J) 二次林

40 リュウキュウマツ群落 (表-12)

リュウキュウマツは宝島を北限とするマツ科の樹木で非石灰岩地の2次林として群落をつくる。リュウキュウマツ群落はリュウキュウマツが第1層に優占する群落で、第1層が高木層のとき高木層の林冠は密閉されず、リュウキュウマツだけが突出する。他の2次林とはヒメユズリハ、シャリンバイ、ハマビワなどのオニヤブソテツ-ハマビワ群集の主要構成種で識別される。また、亜高木層以下にはモクタチバナ-タブノキ群落の構成種が多く、いずれモクタチバナ-タブノキ群落に遷移することが予想される。宝島の西部の台地や中央部の尾根、山地部の西部斜面に18~25 mの高木林を形成していた。

41 アカメガシワ-カラスザンショウ群落 (表-12)

森林の伐採や道路工事などの自然破壊の後には先駆性の落葉広葉樹のアカメガシワ、カラスザンショウ、シマグワ、ムラサキシキブ、サキシマフヨウ、ショウロウクサギなどが優占する群落がつくられる。特にサキシマフヨウ、ショウロウクサギが優占することが多いのでサキシマフヨウ群落、ショウロウクサギ群落などと独立させることもある。群落中にはホウロクイチゴ、リュウキュウバライチゴなどのバラ科の有刺植物やハスノハガシワ、クズなどの蔓植物が随伴する。

西部の道路沿って帯状に、幅は狭い群落が見られる。

42 ギンネム群落 (表-12)

ギンネムは新大陸起源のマメ科の栽培植物で、土壌改良、家畜の飼料のために植栽されたり、成長が早いので道路工事後の植生の回復に利用されたりする。逸出したものが戦後急激に広がって宝島以南、琉球列島では帰化植物として定着し、耕作が放棄された畑地や道路工事などの自然破壊が起こった場所等では普通に見られる。

ギンネム群落は低木層にギンネムが優占する群落で、低木層には先駆性の落葉広葉樹のシマグワや蔓植物のノアサガオ、ハマサルトリイバラなどが混在し、草本層は上層がびっしりと被覆するため発達できず構成種数は少ない。調査地は畑耕作放棄地であった。

(K) 竹林

43 リュウキュウチク群落 (表-12)

リュウキュウチクは甌島以南に分布するササの仲間で、タケノコが美味である。

リュウキュウチク群落はリュウキュウチクが優占する群落で、甌島以南の南西諸島の非石灰岩地で耕作や牧畜のために火入れを行う地域ではごく普通に大規模な群落がみられる。

宝島では中央部のイマキラ岳から延びる尾根部や島の北部と南部にある牧場内で、大規模に広がった群落を見ることができる。一般にリュウキュウチクの落葉は腐植しにくく被覆して下層の成長を阻害するため構成種数は少ない。今回の調査地は、西部海岸で強い潮風が絶えず吹き付けるため、群落の高さは2mと低く、林床が明るいため構成種はアマミヒトツバハギ、ホソバワダンなど海岸植物をはじめ7種で本群落としては多かった。

44 ダンチク群落 (表-12)

ダンチクは関東南部以西に分布する6mにも達するイネ科の多年草で、葉が広いので種子島ではちまきの皮として利用される。

ダンチク群落はダンチクが優占する低木層と草本層の2層からなる群落で、砂丘地や礫地の海岸に群落をつくる。低木層にはダンチクその他サキシマフヨウやクサトベラが、草本層にはハチジョウススキやカタバミなどが低被度で随伴する。地下水が浸出する場所や河川の側など湿度の高い環境に群落は発達する。調査地点は西部海岸の水無川の河岸だった。

(L) 植林

45 トクサバモクマオウ群落 (表-13)

トクサバモクマオウはオーストラリア北部原産の雌雄同株の被子植物で、楕円形の集合果ができる。成長が早く、琉球列島や宝島では砂丘地での飛砂や塩害の防止のため防風林として終戦後植林されている。

群落の高さは12～15mで、第1層にはトクサバモクマオウが優占し、カラスギバサンキライ、

ミヤコジマツツラフジ，ハマサルトリイバラなどの蔓植物や先駆性の落葉広葉樹のシマグワが繁茂する。低木層は発達せず，空いた状態になっている。林床は明るく，草本層には蔓植物や森林内部とは考えられないくらいホソバワダンなどの陽生植物が多く生育している。

46 アオノリュウゼツラン群落（表－13）

アオノリュウゼツランはメキシコ原産のリュウゼツラン科の植物で，プルケという酒を造る原料として栽培される。乾燥に強く，開花は40年に一度くらい頻度で起こるといわれるが，開花時には7～8mにおよぶ花茎を伸ばす。

宝島ではセンゴ海岸付近の道路沿いに植栽されている。アオノリュウゼツランが優占し，オトコヨモギ，ハチジョウススキ，ホソバワダン，ハイキビ，ハマスゲ等のオトコヨモギ群落と同様な組成を持つ。

(M) 林縁植物群落

47 ナンテンカズラ群落（表－14）

ナンテンカズラは有刺性のマメ科の蔓植物である。かつては屋久島が北限であったが，最近種子島でも発見された。また，奄美大島ではマングローブ林などの湿度の高いところで群落を形成している。

調査されたナンテンカズラ群落は西部海岸の砂丘地にあるソテツ群落の後背地にあり，ナンテンカズラが縦横に這いながら優占し，ノアサガオ，ヘクソカズラ，ハマサルトリイバラ，キダチハマグルマなどの蔓植物やリュウキュウチク，ハチジョウススキなどが混在する。

48 ノアサガオ群落（表－14）

ノアサガオは紀伊半島以南の暖帯の海岸部に生える蔓植物で，鹿児島県の離島ではごく普通に見られる植物である。ノアサガオは地面を直接覆ったり，林縁の植物に絡んで厚く覆い，樹木の成長を阻害したりする。

ノアサガオ群落はノアサガオが優占する群落であるが，蔓植物としてアマチャヅル，フウトウカズラ，ミヤコジマツツラフジ，ハカマカズラ，リュウキュウテイカカズラ，エビヅル，クズなどが常在する。また，平地の路傍から森林にかけてのステージに分布するため，モクタチバナータブノキ群落，ツルソバ－カラムシ群落や先駆性の落葉広葉群落のアカメガシワ－カラスザンショウ群落などの主要種を含むことが多い。

49 トウヅルモドキ群落（表－14）

トウヅルモドキは宝島を北限とし，県内では他に徳之島と与論島に分布する熱帯性のトウヅルモドキ科の蔓性の樹木である。

トウヅルモドキ群落は海岸のアカテツ－ハマビワ群集やオオクサボク－ガジュマル群落を覆う林縁植物群落で，トウヅルモドキが優占するほか蔓植物として，カラスギバサンキライ，テリハ

表-13 植林

45 トクサバモクマオ群落

46 アオノリュウゼツラン群落

Community Number:	群落番号	45	46
Releve Number:	調査地点番号	71	88
Locality:	調査年月日	108 99 11 22	99 11 24 23
Altitude (m):	海拔高 (m)	6	10
Exposure:	方位	-	SE
Slope (°):	傾斜 (°)	-	5
Quadrat Size (m×m):	調査面積 (m ²)	225	300
Tree layer (S) Height (m):	高木層の高さ (m)	15	12
Coverage (%):	被植率 (%)	70	90
Sub Tree layer (S) Height (m):	亜高木層の高さ (m)	8	-
Coverage (%):	被植率 (%)	50	-
Shrub layer (S) Height (m):	低木層の高さ (m)	3	2
Coverage (%):	被植率 (%)	40	5
Herb Tree layer (T-2) Height (m):	草本層の高さ (m)	0.5	0.5
Coverage (%):	被植率 (%)	10	90
No. of species:	出現種数	20	22
Planted species:	植栽種		
Casuarina equisetifolia	トクサバモクマオ	B1	4.4 5.5
Planted species:	植栽種		
Companions	随伴種		
Ardisia sieboldii	アオノリュウゼツラン	K	+
Pittosporum tobira	ミコノマツヅラフシ	S	+
Cyclea insularis	ミヤコノマツヅラフシ	S	1.1 1.1
		S	1.2 +
		K	1.2 2.3
		B1	+2
		K	+
		B2	+2
		K	+
		S	+
		B1	+2
		K	+
		K	+
		S	+
		B1	+2
		K	+
		K	+
		S	+
		K	+
		B1	+2
		K	+
		S	+
		B2	3.3
		K	+
		K	1.2 +2
		K	+
		K	+
		S	+
		K	+
		B1	+2
		K	+
		S	+
		B2	3.3
		K	+
		K	1.2 +2

表-14 林縁植物群落

47 ナンテンカズラ群落
49 トウヅルモドキ群落
51 オオキダチハマグルマ群集

48 ノアサガオ群落
50 クズ群落

Community Number:	群落番号	47	48	49	50	51
Releve Number:	調査地点番号	91	11	95	119	9
Locality:	調査年月日	99 11 21	99 11 21	99 11 23	99 11 24	99 11 21
Altitude (m):	海拔高 (m)	4	10	60	15	8
Exposure:	方位	-	-	N	E	-
Slope (°):	傾斜 (°)	-	-	40	5	-
Quadrat Size (m×m):	調査面積 (m ²)	40	25	50	64	64
Tree layer (S) Height (m):	高木層の高さ (m)	-	3.0	5.0	5	25
Coverage (%):	被植率 (%)	-	95	50	5	-
Shrub layer (S) Height (m):	低木層の高さ (m)	-	-	-	-	-
Coverage (%):	被植率 (%)	-	-	-	-	-
Herb Tree layer (T-2) Height (m):	草本層の高さ (m)	1.5	0.5	0.5	0.5	1.0
Coverage (%):	被植率 (%)	100	5	20	100	100
No. of species:	出現種数	8	14	18	15	22
Diff. species of comm.:	群落区分種					
Caesalpinia crista	ナンテンカズラ	K	5.4	.	.	.
Smilax sebeana	トウヅルモドキ	K	1.2	.	.	.
Diff. species of comm.:	群落区分種					
Ipomoea acuminata	オオキダチハマグルマ	K	+	+	+	+
Gynostemma pentaphyllum	アサガオ	K	+	+	+	+
Piper kadzura	アサガオ	K	+	+	+	+
Cyclea insularis	アサガオ	K	+	+	+	+
Trachelospermum asiaticum var. liukiense	アサガオ	K	+	+	+	+
Bauhinia japonica	アサガオ	K	+	+	+	+
Vitis ficifolia Bunge	アサガオ	K	+	+	+	+
Diff. species of comm.:	群落区分種					
Flagellaria indica	トウヅルモドキ	S
Diff. species of comm.:	群落区分種					
Pueraria lobata	アサガオ	K
Lactuca indica	アサガオ	K
Diff. species of comm.:	群落区分種					
Wedelia biflora var. ryukyuiensis	アサガオ	K
Miscanthus sinensis var. condensatus	アサガオ	K
Companions:	随伴種					
Pleiblastus linearis	アサガオ	K	1.1	+	+	+
Polygonum chinense	アサガオ	S	+	+	+	+
Ardisia sieboldii	アサガオ	S	+	+	+	+
Clerodendron trichotomum var. esculentum	アサガオ	S	+	+	+	+
Paederia scandens	アサガオ	S	+	+	+	+
Morus australis	アサガオ	S	+	+	+	+
Heterosmilax japonica	アサガオ	S	+	+	+	+
Hibiscus mutabilis	アサガオ	S	+	+	+	+
Opismunus undulatifolius var. japonicus	アサガオ	S	+	+	+	+
Boehmeria nivea var. nipponica	アサガオ	S	+	+	+	+

出現1回の種 Additional species occurring once in releve no. 11; Sonchus oleraceus (アサガオ) K +, Melothria madraspatana (アサガオ) S +, Alocasia odora (アサガオ) K +, Euphorbia pseudochamaesyce (アサガオ) K +, Trichosanthes bractata (アサガオ) S +, Commelina benghalensis (アサガオ) K +, no30; Colysis wrightii (アサガオ) K 1.2, Ficus erecta (アサガオ) S 1.1, Alocasia odora (アサガオ) K 1.1, Neolisteia sericea (アサガオ) K +, Persea thunbergii (アサガオ) S 1.2; no31; Rubus coreocanthus (アサガオ) K 1.1, Rubus sieboldii (アサガオ) K 1.2, Alpinia intermedia (アサガオ) K 2.2, Cyclogramma acuminatum (アサガオ) S 1.1, Pittosporum tobira (アサガオ) S 3.3, Crassocephalum crepidiastrium (アサガオ) K 1.2, Rhipidolepis indica var. integrirama f. umbellata (アサガオ) S 1.1, Euaeanus japonicus (アサガオ) K +, Bischofia puseudo-pedunculatum (アサガオ) S 1.1, Elaeagnus macrophylla (アサガオ) K +, Bischofia javanica (アサガオ) S +, Cinnamomum daphnoides (アサガオ) S 1.1; no108 Polygonum chinense (アサガオ) K +, Eupatorium variabile (アサガオ) K +, Sonchus oleraceus (アサガオ) K +, Lepidium virginicum (アサガオ) K +, Conyza japonica (アサガオ) K +, Alpinia intermedia (アサガオ) K +, Canavalia lineata (アサガオ) K 1.2, Pandanus odoratissimus (アサガオ) K +, Litsea japonica (アサガオ) K +, Cyperus polystachyos (アサガオ) K +, no88 Artemisia indica var. orientalis (アサガオ) K +, Calystegia soldanella (アサガオ) K +, Ipomoea pes-caprae ssp. brasiliensis (アサガオ) K +, Vernonia cinerea (アサガオ) K +, Cassytha filiformis (アサガオ) K 1.3, Opismunus undulatifolius var. japonicus (アサガオ) K 1.2

ツルウメモドキ、ミヤコジマツツラフジなどやアカテツ-ハマビワ群集、ガジュマル群落の主構成種が随伴する。セング港近くの風見権現跡付近に分布している。

50 クズ群落 (表-14)

クズ群落はクズが優占する群落で、路傍から林縁まで分布する。調査された群落は路傍の群落で蔓植物としてクズの他にノアサガオ、ツルソバ、テリハノイバラなどが、またヨモギ、チガヤなどの路傍植物も混在する。

51 オオキダチハマグルマ群集 (表-14)

オオキダチハマグルマは佐多町を北限とするキク科の低木で、南西諸島の海岸ではマント群落を構成する普遍的な種である。

オオキダチハマグルマ群集は海岸砂丘地の後背地や海岸性風衝低木林の林縁部に、蔓状のオオキダチハマグルマがびっしりと覆い優占する群落である。群落の高さは0.5～1.5 m、植被率100%でハチジョウススキが常在するほかノアサガオ、カラスギバサンキライ、ヘクソカズラ、ナガバカニクサなどの蔓植物が、シマグワ、サキシマフヨウなどの先駆性落葉広葉樹や海浜植物のハマゴウなどにかぶさって密生している。

(N) 忌避植物群落

52 テリハノイバラ群落 (表-15)

鷺が崎の海岸近くの牧場内に有刺植物のテリハノイバラの優占する群落が調査された。本群落はテリハノイバラが総合優占度4で優占するほか有刺植物のイヌザンショウ、有毒植物のトウワタを含み、地表を這うことで草食獣からの採食を免れるシバ、ハイメドハギ、カタバミなどの植物が随伴した。混在するネズミノオやスズメノコビエ、ホソバワダン等には牛の食痕が残っていた。

53 ホウロクイチゴ-シマエンジュ群落 (表-15)

シマエンジュは和歌山県以南に生える海岸性のマメ科の落葉低木である。ホウロクイチゴは高さが1.5 mになる蔓性のバラ科有刺植物である。

本群落はやや隙間の多いシマエンジュの下層にホウロクイチゴが優占し、ジャングル状になって牛が侵入しにくい群落構造になっている。ホウロクイチゴの先端には食痕があるが、シマエンジュには食痕はなかった。口永良部島の海岸の牧場でもシマエンジュ群落が分布し、食痕もなかったことから、シマエンジュは牛にとってはまずい毒性があつて忌避植物になっていることが考えられる。低木層にはカンコノキ、リュウキュウチク、ハマヒサカキが混在し、リュウキュウチクには食痕が見られた。草本層はシマエンジュとホウロクイチゴの被覆のために発達しない。

54 キングジカーシマイズセンリョウ群落 (表-15)

シマイズセンリョウは宮崎県以南の沿海地に分布するヤブコウジ科の常緑低木で、シカによつ

で裸地化が見られる臥蛇島では忌避植物として繁茂し群落をつくっている。キングジカも牧場ではしばしば群落を形成している。

本群落は荒木崎の牧場内にあつてハマヒサカキ、シマイズセンリョウの被度が高い。本群落の立地は風衝低木林のオニヤブソテツーハマビワ群集を牧場に開拓したのと考えられ、ハマヒサカキ、マルバニッケイやオニヤブソテツ、ツルモオリンカなどが混在した。

(O) 路傍植物群落

55 ホソバワダンーハチジョウススキ群落 (表-16)

本群落は磯地海岸や岩礁地海岸、隆起サンゴ礁海岸で風衝低木林が破壊されたところや風衝低木林と風衝草原の接続部に現れる群落で、風衝の強さや堆積している表土の量によって構成種数やハチジョウススキの優占度に差があるものと思われる。すなわち、海岸際は構成種数も少なくホソバワダン等の被度が高く、内陸に向かうにつれハチジョウススキの被度が高くなり構成種数も多くなる傾向がある。

調査番号21はホソバワダンーマルバニッケイ群集のソデ部、調査番号6は畑放棄地の畦部に成立していた群落である。

56 チガヤ群落 (表-16)

トカラ列島の島々では牧畜が盛んである。畜舎飼いをするときの牧草としてチガヤが利用されるが、そのチガヤは畑放棄地や路傍のチガヤ群落から得ている。チガヤは風散布型で多量の種子が放散されるため、裸地があれば周辺から種子が供給される。また、刈り取りによっても地下茎が残り、急激に成長するため、刈り取りを年に数回行うところでは徐々にチガヤの優占度の高い群落となっていく。トカラ列島のチガヤ群落ではツルソバやクマノギクの常在度が高い。

57 ツルソバーカラムシ群落 (表-16)

本群落はツルソバ、カラムシ、リュウキュウバライチゴの優占する植分でオニタビラコ、シマツユクサ、ソクズ、ミヤコジマツツラフジが区分種になる路傍植物群落である。植生の高さは0.3～1.5 mで前述の種の外、ノアサガオ、カタバミ、ヘクソカズラ等が混生する。宝島の集落内の空き地や畦道等で調査された。

奄美・沖縄・八重山から報告されているツルソバーカラムシ群落と同一のものと考えられる。

58 ナピアグラス (ネピアグラス) 群落 (表-16)

ナピアグラスは熱帯アフリカ原産のイネ科植物で、牛の飼料として輸入栽培されたものが逸出し、南九州以南では路傍や畑放棄地などで野生化して群落を形成している。

本群落は2.5 mに達するナピアグラスが優占し、ノアサガオ、ヘクソカズラ、カタバミ、ミツハマゴウなどが混在する。飼料として栽培されているものか、野生化して繁茂しているのかなか見極めにくい群落で、宝島集落辺の路傍や放棄畑地、畑地に分布する。

59 トウワタ群落 (表-16)

トウワタは熱帯アメリカ原産のガガイモ科の低木で、日本には1842年に園芸植物として渡来したが、南西諸島では逸出し群落をつくっている。

トウワタ群落はトウワタが優占する群落で、やや湿った路傍や湿地に小規模な群落をつくる。調査群落は群落の高さが1.5m、植被率95%、チゴザサ群落に接する地点だったため、キダチキンバイ、チゴザサ等が混在した。

(O) 路上植物群落

60 ギョウギシバ群落 (表-17)

ギョウギシバ群落はギョウギシバが優占する群落で、路上植物群落として校庭や空き地、未舗装の道路、また、自然植生としては砂丘地の窪地、河川の冠水草原の堆砂地などに群落をつくる。

調査地点番号2は耕作地辺の道路、79は砂丘地の道路の路上植物群落で、114は(前述)小池の内部にできた堆砂地の群落である。

本群落はギョウギシバが優占し、ネズミノオ、スズメノコビエ等で区分される。

61 カタバミ群落 (表-17)

本群落は道路辺の空き地に成立している群落で、ヘンリーメヒシバ、オニタピラコ、タチスズメノヒエ等が混在する。ギョウギシバ群落に比較してやや湿った立地に群落をつくる。

62 アオイゴケ群落 (表-17)

アオイゴケ群落はアオイゴケが優占する群落で、やや湿った路上に形成される。

耕作地に接する路上であるため、ツルソバ、カタバミ、シマニシキソウ、ベニバナポロギク等が混在した。

(Q) 果樹園・耕作地雑草群落

63 ムラサキカタバミ-リュウキュウハンゲ群落 (表-18)

リュウキュウハンゲは球茎を持つサトイモ科の植物で、鹿児島市以南の人里に分布する。本群落は定期的に除草するピワ園で得られた群落で、ムラサキカタバミ、クワクサ、リュウキュウコスミレ、リュウキュウハンゲ等で区分され、カタバミ、マルバツユクサ、ツユクサ、ハマスゲ等が随伴する。

64 オオバボンテンカ-シマニシキソウ群落 (表-18)

宝島の集落近くで母岩を隆起サンゴ礁とするサツマイモ畑からオオバボンテンカ、シマニシキソウ、カタバミ、マルバツユクサ、アキノノゲシ、イヌタデ等が生育している群落が得られた。調査地点数が少なく、全体像もつかみにくいですが、シマニシキソウの被度の高い耕作地群落は口之島からも得られている。

表一17 路上植物群落

60 ギョウギシバ群落

-1 ネズミノオ下位単位

-2 典型下位単位

61 カタバミ群落

62 アオイゴケ群落

Community Number:	群落番号	-1	-2	60	61	62
Releve Number:	調査地点番号	2	79	111	110	57
Locality:	調査年月日	99	99	99	99	99
		11	11	11	11	11
		20	22	24	20	22
Altitude(m):	海拔高(m)	10	4	5	5	30
Exposure:	方位	-	-	-	-	-
Slope ():	傾斜 (°)	-	-	-	-	-
Quadrat Size(m×m):	調査面積 (m ²)	10	15	4	16	4
Shrub layer (S) Height(m):	草本層の高さ(m)	0.3	0.2	0.2	0.3	0.5
Coverage (%) :	出現種数	90	95	60	100	90
No. of species:	出現種数	10	15	2	17	14
Diff. species of comm.:	群落区分種					
Cynodon dactylon	ギョウギシバ	K	5.4	5.4	4.4	2.2
	下位単位区分種					
Sporobolus fertilis	ネズミノオ	K	1.1	1.2	.	.
Paspalum thunbergii	スズメノヒエ	K	+2	+	.	.
Plantago asiatica	オオハコ	K	.	+	.	.
Diff. species of comm.:	群落区分種					
Oxalis corniculata	カタバミ	K	+	+2	.	5.4
Diff. species of comm.:	群落区分種					
Dichondra repens	アオイゴケ	K	.	.	.	5.5
Companions:	随伴種					
Eleusine indica	モシロコ	K	+	+	.	+
Oenothera laciniata	コマコイサ	K	.	+2	.	+
Polygonum chinense	ツルソバ	K	+	.	.	.
Euphorbia pseudo-chamaesyce	シマニシキソバ	K	+	.	.	+
Youngia japonica	オニタビラコ	K	.	.	.	1.2
Ipomoea acuminata	アサガオ	K	.	.	.	1.2
Crepidiastrum lanceolatum	ホソバワダン	K	.	+	.	.
Setaria viridis	ハマエノコ	K	.	+	.	1.2
Miscanthus sinensis var. condensatus	ハシノヨリス	K	.	+	.	.

出現1回の種 Additional species occurring once in releve no.2: Sida rhombifolia キンコシカ K +, Cyperus brevifolius ヒメグサ K +, Raphanus sativus var. hortensis f. aphnistroides ミチハタカランシ K +, Artemisia japonica 朴ヨモギ K +, Lysimachia mauritiana ハボクソ K +, Artemisia princeps ヒキキ K +, Conyza sumatrensis オオアザミ K +, Euphorbia supina シシソバ K +, Panicum repens ハイキキ K + 2: no.10: Angelica japonica ハマウド K +, Digitaria henryi ベンリメシバ K 2.3, Sonchus oleraceus ハルノグサ K +, Rumex japonicus キンギシ K +, Paspalum urvillei タチスズメノヒエ K 1.2, Wedelia biflora var. ryukyensis オオキキチマクマ K + 2, Paederia scandens ヘクカスラ K +, Centella asiatica ツボクサ K + 2, Wedelia chinensis クマノキ K 1.2: no.57: Echinocloa crus-galli イシユ K +, Melochia corchorifolia ノニア K +, Crassocephalum crepidioides ベニハナホトキキ K +, Rorippa indica カラクサカランシ K + 2, Viola yezoensis var. pseudo-japonica ヲウゴン K +, Pleioblastus linearis ヲウゴン K +, Indernia crustacea ヲウゴン K +

表一18 耕作地雑草群落

63 ムラサキカタバミ-リュウキュウハング群落

64 オオバボンテンカーシマニシキソウ群落

Community Number:	群落番号	63	64
Releve Number:	調査地点番号	55	56
Locality:	調査年月日	99	99
		11	11
		22	22
Altitude(m):	海拔高(m)	40	30
Exposure:	方位	N	.
Slope ():	傾斜 (°)	25	.
Quadrat Size(m×m):	調査面積 (m ²)	22.0	22.5
Shrub layer (S) Height(m):	草本層の高さ(m)	2.0	2.0
Coverage (%) :	出現種数	70	80
Herb Tree layer (T-2) Height(m):	草本層の高さ(m)	0.5	0.5
Coverage (%) :	出現種数	3	2
No. of species	出現種数	18	26
Planted species	植栽種		
Eriobotrya japonica	モモ	S	4.4
Diff. species of comm.:	群落区分種		
Xanthoxylum	ムラサキカタバミ	K	+2
Fatouma villosa	クワ	K	+
Viola yezoensis var. pseudo-japonica	リュウキュウコスミレ	K	+
Thyphonium divaricatum	リュウキュウハング	K	1.2
Planted species	植栽種		
Diff. species of comm.:	群落区分種		
Urena lobata	オオバボン	K	.
Euphorbia hirta	オオバボン	K	.
Companions:	随伴種		
Oxalis corniculata	カタバミ	K	+2
Pennisetum alopecuroides f. viridescens	リュウキュウチク	K	+
Commelina benghalensis	マルハハコ	K	+2
Ipomoea acuminata	アサガオ	K	+
Sonchus oleraceus	アサガオ	K	+
Conyza sumatrensis	オオアザミ	K	+

出現1回の種 Additional species occurring once in releve no.55: Scilla scilloides ツルソバ K +, Hydrocotyle maritima ヲウゴン K + 2, Polygonum chinense ツルソバ K + 2, Commelina benghalensis オオアザミ K + 2, Cyperus polystachyos ハマウド K 1.2, Xanthoxylum urinarum オオアザミ K + 2, Lapsana apogonoides ツクシメナモミ K + 2, no.56: Phyllanthus urinaria オオアザミ K + 2, Centella asiatica ツクシメナモミ K + 2, no.56: Quatica ヲウゴン K +, Cardamine flexuosa タネツクハナ K +, Dichondra repens アオイゴケ K 1.2, Echinocloa crus-galli イシユ K + 2, Stellaria alsine var. undulata カラクサカランシ K +, Echinocloa crus-galli イシユ K + 2, Rorippa indica カラクサカランシ K +, Melochia corchorifolia ノニア K + 2, Trichosanthes cucumeroides カラスリ K +, Cycela insularis ミヤコシユ K + 2, Gynostemma pentaphyllum アマキヤブ K + 2, Amaranthus lividus イヌナシ K + 2, Lactuca indica コオノナシ K +, Lysimachia japonica シロハバ K 1.2, Lactuca indica アキノグサ K +, Paederia scandens ヘクカスラ K

琉球列島の隆起サンゴ礁を母岩とする耕作地からシマニシキソウ、ハリビユ、タツノツメガヤ、ザラツキエノコログサを標徴種にするシマニシキソウ-ハリビユ群集が報告されているが、同一の群落と思われる。

(2) 宝島の植物群落数

以上の群落を宝島の植生（大野照好 1984）で報告された群落単位と比較すると以下のようになる。

今回の調査及び大野の調査を元に宝島の植物群落は 68 群落以上になり、従前調査された中之島（56 群落）口之島（55 群落）などと比較して多いことになる。

これは、宝島ではサンゴ礁が発達し、砂丘植生や熱帯性海岸林、隆起サンゴ礁上植生が発達していることに他ならない。

宝島植生対照表

	寺田 (1999)	大野 (1984)
	自然植林 高木林	
1	オオクサボク-ガジュマル群落	ビロウ-ガジュマル優占群落
2	モクダチバナ-タブノキ群落	タブノキ群落
3	ビロウ群落	ビロウ群落
4	スダジイ群落	スダジイ群落
	低木林 海岸性風衝低木林	
5	ホソバワダン-マルバニッケイ群集	マルバニッケイ群落
6	アカテツ-ハマビワ群集	
7	ケウバメガシ群落	ケウバメガシ群落
8		マルバサツキ群落
	熱帯性海岸林	
9	アダン群集	アダン群落
10	オオハマボウ群落	オオハマボウ群落
11	モンパノキ-クサトベラ群集	
12	ソテツ群落	
13	ハウチワノキ群落	ハウチワノキ群落
	湿生低木林	
14	ミツバハマゴウ群落	ミツバハマゴウ群落
15	イボタクサギ群落	イボタクサギ群落
	隆起サンゴ礁上植生	
16	イソマツ-モクビャッコウ群集	イソマツ-イソフサギ群落
17	イソフサギ群集	イソマツ-イソフサギ群落
18	テンノウメ群落	テンノウメ群落
19	イソヤマテンツキ群集	
	砂丘草原	
20	ソナレムグラ-コウライシバ群集	コウライシバ群落
21	ハマアズキ-グンバイヒルガオ群集	
22	コオニシバ群集	
23	ハマアズキ-グンバイヒルガオ群集	ハマヒルガオ群落
24	シロバナミヤコグサ群落	
25	ハマゴウ群落	ハマゴウ群落
26	クロイワザサ-スナヅル群落	シマネナシカズラ群落
27	ハマボウフウ-ツキイゲ群集	ツキイゲ群落

28	オトコヨモギ群落	オトコヨモギ群落
29	オキナワハイネズ群落	
30		アマミヒトツバハギ群落
31		ハナカモノハシ群落
32		コウボウシバ群落
塩生湿地群落		
33	ソナレシバ群落	
34	ヒトモトススキ群落	ヒトモトススキ群落
湿地群落		
35	ヒメミソハギースズメノトウガラシ群落	
36	チゴザサ群落	
37	テツホシダ群落	
38	ハイキビ群落	ハイキビ群落
39	タイワンカモノハシ群落	
40	オオサクラタデ群落	
41	ギョウギシバ群落	
崖地植生		
42	ポウラン群落	
43	オオイタビ群落	
代償植生 二次林		
44	リュウキュウマツ群落	リュウキュウマツ群落
45	アカメガシワーカラスザンショウ群落	フヨウ群落
46	ギンネム群落	ギンネム群落
竹林		
47	リュウキュウチク群落	リュウキュウチク群落
48	ダンチク群落	
植林		
49	トクサバモクマオウ群落	モクマオウ群落
50	アオノリュウゼツラン群落	リュウゼツラン群落
林縁植物群落		
51	ナンテンカズラ群落	
52	ノアサガオ群落	
53	トウヅルモドキ群落	(ピロウーガジュマル優占群落)
54	クズ群落	
55	オオキダチハマグルマ群集	
忌避植物群落		
56	テリハノイバラ群落	
57	ホウロクイチゴーシマエンジュ群落	シマエンジュ群落
58	キンゴジカーシマイズセンリョウ群落	
路傍植物群落		
59	ホソバワダンーハチジョウススキ群落	ハチジョウススキ群落
60	チガヤ群落	チガヤ群落
61	ツルソバーカラムシ群落	ホシダ群落・ヨモギ群落
62	ナビアグラス (ネビアグラス) 群落	
63	トウワタ群落	
路上植物群落		
64	ギョウギシバ群落	
65	カタバミ群落	
66	アオイゴケ群落	
果樹園・耕作地雑草群落		
67	ムラサキカタバミーリュウキュウハング群落	
68	オオバボンテンカーシマニシキソウ群落	

3 現存植生図作成調査

植生調査および宝島の植生に関する既発表資料をもとに以下の20の凡例で現存植生図を作成した。

宝島現存植生図凡例

I 自然植生

高木林

- 1 モクタチバナータブノキ群落
- 2 ビロウ群落

亜高木・低木林

- 3 ケウバメガシ群落
- 4 アカテツーハマビワ群集
- 5 ホソバワダンーマルバニッケイ群集
- 6 熱帯性海岸林（アダン群集など）

草原

- 7 砂丘草原（ハマゴウ群落など）
- 8 隆起サンゴ礁上草原（ソナレムグラーコウライシバ群集など）
- 9 湿生地群落（オオサクラタデ群落など）

II 代償植生

- 10 リュウキュウマツ群落
- 11 リュウキュウチク群落
- 12 トクサバモクマオウ群落

III その他

- 13 牧草地
- 14 畑地雑草群落
- 15 水田雑草群落
- 16 畑地放棄地
- 17 水田放棄地
- 18 路傍雑草
- 19 市街地
- 20 造成地

(1) 凡例の概要

I 自然植生

高木林

1 モクタチバナータブノキ群落

本群落だけでなくオオクサボクーガジュマル群落、本群落に接する小規模なクズ群落、アカメガシワーウラジロエノキ群集、耕作放棄地なども本群落に含めた。

本群落は隆起サンゴ礁起源の石灰岩地帯において主要な潜在自然植生となるため、伐採や耕作、火入れ、放牧などの人為的な干渉が少ないところでは本群落になっており、特に西海岸やイマキラ岳を中心とする山地部を囲むように宝島の群落では最も広い面積にわたり分布している。

2 ビロウ群落

本群落は女神山の周辺及びセンゴ港近くの海岸部に分布する比較的小規模な群落である。本群落中には小規模なアカテツーハマビワ群集、トウヅルモドキ群落も含む。

亜高木・低木林

3 ケウバメガシ群落

ケウバメガシが優占する群落で女神山の山頂付近に帽子をかぶせたように分布する小規模な群落である。

4 アカテツ－ハマビワ群集

海岸性風衝低木林としてシャリンバイやハマヒサカキ等の優占する群落で、海岸風衝地に形成される。宝島西南部に熱帯海岸林とモクタチバナ－タブノキ群落とをつなぐような立地に小規模で帯状に分布する。

5 ホソバワダン－マルバニッケイ群集

マルバニッケイが優占する群落で、海岸の風衝地に分布する。宝島の北端、南端、東端の岩上地、砂質地に島を囲むように小規模な帯状の群落分布をつくっている。

6 熱帯性海岸林（アダン群集など）

森林群落としては海岸の最前線にくる熱帯性海岸林の群落で、主としてアダン群集である。他にモンパノキ－クサトベラ群集、オオハマボウ群集、ソテツ群落、ハウチワノキ群落、ナンテンカズラ群落、イボタクサギ群落などが含まれる。宝島を取り巻くように帯状に狭い幅で分布している。「砂漠」では広く分布している。

草原・荒原

7 砂丘草原（ハマゴウ群落など）

宝島は造礁サンゴが作られる北限地といわれ環礁が発達し、サンゴ砂から成る砂丘が成立している。環礁のため高波が滅多に砂丘の奥深くまでは侵入せず、無植生帯は一般の砂丘に比較して狭い。植生帯の面積は夏季はハマアズキー－グンバイヒルガオ群集などによって広がり、秋季に台風などの高波によって失われ、冬季には成長が阻害され狭くなる。

植生図に示された砂丘草原は植生帯中のハマアズキー－グンバイヒルガオ群集、コオニシバ群集、ハマニガナー－ハマヒルガオ群落、クロイワザサ群落、クロイワザサ－スナヅル群落、オトコヨモギ群落、ハイキビ群落等の小規模な群落と砂丘無植生帯の集合体である。

8 隆起サンゴ礁上荒原（ソナレムグラ－コウライシバ群集など）

宝島は隆起したサンゴ礁に完全に取り巻かれている。隆起サンゴ礁上には通常の干満で水没するところは無植生帯になっているが、潮流が押し寄せないところはイソフサギ群集、モクビヤッコウ－イソマツ群集、ソナレムグラ－コウライシバ群集、テンノウメ群落が分布する。本凡例は宝島の最外端を大きく取り囲んでいる。

9 湿地群落（オオサクラタデ群落など）

大池や小池はかつては常時湛水されていたが、近年は秋季から冬季にかけて干上がり湿地化している。この湿地中にはハイキビ群落、チゴザサ群落、ギョウギシバ群落、オオサクラタデ群落、テツホシダ群落など小規模な群落が形成されている。

II 代償植生

10 リュウキュウマツ群落

本群落は山地部を取り囲むように比較的の大規模な群落が作られている。樹齢で40数年のものが大半であるが、女神山の鞍部付近には100年を越えるものもある。山脚部から山頂部や尾根